大正十三年十一月二十二日第三種郵便物認可　（毎月一回一日發行）　昭和五年四月三十日印刷納本　同五年五月一日發行　第八卷第四號

# 婦人運動

## 五月號

第8卷　第4號

職業婦人社　發行


ヤマサ醤油
品質日本一
味覺に訴ふ

# 萬花圖鑑

## 見よ！此の驚異的大出版！

辻畫伯は花の寫生に心魂を打ち込み、日本支那印度歐洲に足跡遍く、花を愛する切情溢れて其の廿五年間に手寫せる花の種類實に數千種、花葩一片のスケッチも悉く畫伯の純眞なる藝術の迸りであり同時に精妙なる花の標模である。花の一つ一つに就ての解説は斯界の權威たる牧野博士の校訂を經たるもの藝術的な原圖と相俟つて學術的價値亦頗る大である。

## 辻永著

裝幀 和田三造・見返 岡田三郎助

**理學博士 牧野富太郎**

畫伯辻君が多年苦心の製作になる萬花の圖を集めて上梓すると聞く。豫て君のそれに就いての研究を識り、その圖を觀てゐる私は、私の專攻の植物學に緣の深い出版であるだけに、一しほ心を惹きつけられるものがある。君はもとより藝術家であつて科學者ではない。而もその成果は、立派に科學の領域にまで確とした地歩を占めてゐる。

## 絢爛無比の豪草本！

◇中味は總て原色版上質百廿斤片面刷

◇裝幀は背革天金カラ押シ金泥總模様

## 內容見本贈呈

全國書店にあり

四六判二倍大 背革天金カラ押總模様豪華本函入、各册オフセット原色版、百二十八枚、解說付

會費 毎月拂 參圓八拾錢 申込金 貳圓 一時拂 貳拾壹圓

申込金最後の會費充當、中途解約返金せず。送料各册廿四錢

締切 五月廿八日限

東京麴町 平凡社 振替東京二九六三九

第八巻 第四號

# 婦人運動（五月號目次）

# 第五十八臨時議會開く

第五十八特別議會は開かれた。

さきの總選擧に依り二七一名といふ絶對多數を制したる民政黨內閣は、議長副議長を初め、豫算、決算、請願、懲罰と衆議院々內の各常任委員長を獨占してわが黨天下の驕りを天下にほしいまゝにしてゐるのであるが、かくて天下は、つひに民政黨內閣のものであるか、どうか？

來るべき五月一日のメーデー（勞働祭）には東京市內だけでも二萬に近い勞働者が、二千以上の婦人勞働者も加つて、

一、失業者に二圓五十錢の日當を出せ！　一、最低賃銀の即時制定！
一、首切り賃銀値下げ絶對反對！　一、治安維持法即時撤廢！
一、植民地民衆の即時解放！　一、帝國主義戰爭反對！

等のスローガンを掲げて示威し、議會に迫るといふのであるが、不安と窮乏のどん底に落されてゐる無產大衆の現實の生活苦は、このまゝに政情を安定ならしめておく筈は決してないと思はれる。

食ふに糧なく、働かうにも職なき民が巷にあふれてゐるのに、爲政者は、たゞ失業者



混亂に初まつた衆議院を見よ

救済と金融改善のお題目を百萬遍くり返すだけで、何らの具體的對策をもち合はせてはゐないではないか。そればかりか、彌々金融ブルヂョアジーへの御用黨振りを發揮して、資本家的産業合理化の手引きを露骨にしつゝあるのである。

資本家政府に抗爭せよ。

無産黨議會對策共同委員會を支援して對議會の鬪爭力を固めよ。

新聞紙の傳へるところに依ると、この政府及び與黨に依つて婦人參政權案が議會に提出されるらしいといふ。會期の短かい臨時議會に於て、特に緊急を要するといふべき問題でもない婦人參政權案が――彼等に依つて、まじめに取扱はれてゐるのでは決つてない、たゞ一時の、人氣とり政策として利用されるのであることは初めから明らかであるが――特に取上げられる筈もないことながら、ともあれ、婦人參政權問題がかういふ際にもとりあげられて取沙汰されるといふことそのことが、斯ういふ反動政府の手をくゞつても婦人參政權はわれ／＼の權利として與へられる場合がないにも限らないものである事を敎へる。婦人參政權が近き將來に我々のものにならうとしてゐる今日、これは重大な問題である。

來る五月二十七日には、全日本婦人參政權大會が東京で行はれやうとしてゐるのであるが、婦人の參政權をして、飽くまで無産者の武器として鬪ひとるために、婦人は、常に既成政黨の正體をはつきりと知る事につとめなければならないし、婦人の倚るべき陣營としては無産黨の立場しかないことを知るべきであり、無産黨をして力強く我々の爲に鬪ひ進ませる爲に、常にこれを擴大し强化する樣に協力しなければならぬ。（むめお）




東京市電ストライキ斷行

# 温情主義の破綻

奥むめお

鐘紡と云へば直ぐ「温情主義」「模範工場」と誰もが思ひ出すほど有名な鐘ヶ淵紡績會社が、全國に散在する三十六の工場、三万五千人の從業員に對して、突然、賃銀の二割三分引下を發表して、世間を呆氣にとらせました。

會社側の云ひ分は、これまで戰時手當として、職工には本給の七割、事務員に對してはその六割を支給してゐたが、金解禁で物價も下落したので、これを全廢して、新たに割増手當として賃金の三割を別に支給すると云ふのですが、名目は兎に角、これでは實質的にその收入が二割三分減じる事になります。

戰時手當と云ふのは無論歐洲戰爭當時の好景氣時代につけた手當の事であります。今時既に、一昔も前の戰爭手當など云ふものがあるからして不思議な位で、從業員がこれを普通の手當、と云ふよりも寧ろ賃金と心得てゐるのは當然であります。會社は既にこの手當を本給に加算したもの、本給として警視廳工場課へ屆け出てゐるとさへ傳へられてゐます。が

本給でなく手當である以上これを恩惠的な手當と云ふのでせうが、では一體鐘紡ではどれだけの賃金を從業員に支拂つてゐるかと云ふと、東京隅田工場では平工の初日給男工五十錢、女工三十五錢、これに問題の戰時手當七割が付いて男工八十五錢、女工六十錢の日給となるのですが、これが一日十時間から十一時間働いた報酬の全部なのであります。でその昇給率はと云ふと、男工一年毎に日給三錢乃至四錢、女工二錢乃至三錢、優等工で一年に日給六錢乃至八錢、十年勤續の三十四五歳の男工で四五名の妻子を抱へたものが、普通本給一圓、戰時手當を合せて一圓七十錢と云ふ現在の狀態であります。

　斯樣な生活狀態の許にある從業員が、例へ名目は何うであらうとも、その收入二割餘を低減される事は生活の脅威でなくして何でありませう。が、問題はそれだけではありません。多年溫情主義の模範工場と全國的に知られてゐてその資金の點でも、その營業成績に於ても、日本で最も優秀な大會社である鐘紡、戰後の好景氣時代は無論、現在のやうな紡績業の最も不振な時にさへも、依然として三割五分と云ふ最も高い率の配當を行ひ、さき頃武藤前社長の退職の際には三百萬圓と云ふ途方もない慰勞金を出して世間を驚かせたほどの營業狀態にある鐘紡が、卒先して賃金の引下げを行ふと云ふ事になれば、當然この財界不振の爲めに惱みぬいてゐる全國の小中企業家が、それを口實に賃金引下げを行ふのは云ふ迄もない事で、事はたゞに纎維工業勞働者三十萬人の問題だけでなく、全産業部門に波及して、全國的勞働階級の生活を脅すやうに至るであらう事は疑へません。

　不景氣時代の事ですから、事業不振で勞賃でも下げねばどうにもこうにもやつて行けない、と云ふのならば、未だ一應首肯出來ます。が、鐘紡の場合は前に云つたやうにそれとは全然問題が違つてゐます。今時他の會社には決して見られない三割五分の配當を立派に株主へ支拂つてゐるのです。溫情の溫の字でもある位なら一圓内外の職工の給料から二割三分の賃金引下をやる代りに、その配當を先づ減額すべき筈である事は三つの子にだつて解る道理であります。

　云ふ迄もなく鐘紡の賃銀引下げは、世界的財界の不況、産業の合理化、印度綿布關税引上、對支輸出不振、國内需要の減退等、國際的及國内的一般現象に起因してゐるものであつて、一口に云へば、資本家がこの不景氣に際して、事業の不振から來る利潤の減少を、その日〳〵の生活に追はれて働き

つゞけてゐる勞働者の賃金から搾り取つて、その埋合せにしやうとしてゐるのであります。さうしてこの賃金引下に續くものは失業地獄であり、一方に於て勞働時間の延長であることは云ふまでもありません。つまり鐘紡の賃金引下はこの資本主義攻勢の筋書きを、その先達として卒先して行つたのであります。

處が鐘紡は自ら溫情主義、家族主義を表看板にして、勞資協調の人情美を强調して、勞働者は會社が保護してやるから、勞働組合などに加入する必要はないと云つて、その組織に近づく事さへ嚴重に禁じられてゐたのであります。從つて鐘紡三萬五千の勞働者は、今度の晴天の霹靂のやうな賃銀引下げに出合つて、極度の混亂に陷るのも無理ならぬ事でせう。始めの中は外部の應援を謝絕して、專ら賃金引下中止の嘆願やら陳述やらをやつてゐましたが、周圍の狀勢は會社側の攻勢は、次第にそんな事を許さなくなりつゝあります。これは紡績業の性質から見て、その從業員の過半が女であり、殊に未組織の工場としては一應無理からぬ事でありますが、我國女工の過半を占めてゐるのが紡績業である事を考へますと、無產婦人の立場から見て、決して輕々に見逃してはならぬ重大問題であると思ひます。さうしてこの出來事を前にして、私達が明確に知らなければならないのは、資本家が企業に投資するのは、勞働者に仕事を與へる爲めでなく、その生活を幸福にする爲めで全然なく、その投資をした資本から生じる利潤を目的にしてゐるのであると云ふことです、從つて利潤を擧げて行く爲めには、少くともその利潤を減少させないためには、他の如何なる物も犧牲にしなければならない。

これは現在の資本主義の根本原則でありまして溫情主義と云ひ或は家族主義と云つても、現在の大產業組織の許では、要するに、この利潤をもつと都合よく擧げて行く爲めの一つの方便にすぎないものであります。ですから、若しその利潤が一度び少しでも脅かされる事になれば、溫情主義とか、家族主義とか云ふやうな御題目は、忽ち一蹴されてしまふのであります。

さうして、この大產業組織は常に、その背後の政治組織と結びついてゐて、例へば、現在政府が懸命になつて宣傳してゐる產業の合理化の如きも、結極これによつて資本家がその利潤の安全を保つ事に役立つだけで、その合理化の爲めに、或は賃金を引下げられ、或は勞働時間を延長され、或は失業

して、生命まで緊縮させられるのは常に勞働階級だと云ふ事を知らなければなりません。

　さうした意味に於て鐘紡の賃金引下げは、溫情主義、家族主義の正體を私達の前にはつきりとバクロしたものであり、現在の如き資本主義社會機構の許に於ては、さうした封建的存在が到底許され難きものである事を一般に知らしめたとも云へませう。又一面から見れば、今迄溫情主義の假面にかくれてゐた資本主義が、勇敢にその假面をかい投げ捨て、眞正面から、勞働階級に打突つて來たとも云へませう。

　斯くして、世界的財界の不振、その切拔け策として、各國が取上げた產業の合理化策は、先づ鐘紡と云ふ我が國產業界の代表的な大會社を尖端に立たせて、勞働階級にその宣戰を布告したのであります。明確な勞働組合を持たなかつた鐘紡從業員達は、遂に外部にその應援を需め、多くの勞働團體、各無產政黨は一致してこれに呼應し、全國的な猛運動が開始されんとしてゐますが、それにつけても懸念されるのは、今迄組織を持たないで、長夜の夢を見てゐた、鐘紡三萬五千の勞働者の態度であります。

　さうして私達婦人としては、凡ゆる方面に於て常に不利不當な地位に置れてゐる婦人全體の問題として、その注意を怠らず、輿論の喚起に勉めるべきだと信じます。

？！・・・・・・・・

# アメリカに於ける純文學の運命と左翼作家

ジヨセフ・フリーマン



（一）

人々が「文學」のことを語る時、彼等は一般に純文學、わけても、より善き型の長篇小說や詩などのことを言つてゐるのだ。此の意味では、「文學」はアメリカの大衆の生活に取つては殆んどゞうでもいゝものだ。合衆國の勞働者や農民の讀んでゐるものに關する廣範圍の研究は無いが、此の國に於ける出版物の壓倒的大半が純文學から成り立つてゐない事は事實だ。本通りの大抵の居住者はシンクレア・ルイスのことを聞いたことが無く、大抵の勞働者はアプトン・シンクレアの名に馴染んでゐない。民衆の「藝術的生活」の主要成分は、純文學ではなくて、新聞や、安雜誌や、ラヂオや、蓄音器や、映畫だ。「限り無き可能性の國」に關するお伽噺を讀むヨーロッパ人は、屢々、大多數の人間がパンのための鬪爭に呑み込まれてゐることを忘れるが、或る保守的な經濟學者が見積る所に依ると、人口の八十パーセントは殆んど生活費を儲ける位が關の山だ。即ち、これまで文學が榮える母體だと考へられてゐた「閑暇と想像との生活」の餘地が殆んどなくなつたのだ。

然し二三の批評家は、アメリカの純文學の微弱な位置を鋭く意識してゐる。即ち、商業主義が文學に與へた壓迫を觀察してゐる。ヴアン・ワイク・ブルックスは、或る著書で、「他の人々のやうに」百萬長者になりたいと云ふ慾望がマーク・トウ

ーエンの天才を不具にしたことを示し、他の著書で、アメリカの淺薄な『精神生活』がヘンリイ・ゼームスをイギリスに追ひやつて石女にしてしまつたことを示してゐる。また、巨大な行動の世界に於いては作家としての自分を輕蔑したジャック・ロンドンのやうな場合もあるし、アプトン・シンクレアの如きは、『拜金藝術や』『金が書く』の中で、遲かれ早かれ金や權力に對する情熱がアメリカの作家を驅つてブルジョアジイに全く身賣りをあせるやうになるだらうと言つてゐる。

然しながら、他の方面では、科學や技術の普及が純文學に及ぼす結果に就いても自覺が生長しつゝある。アメリカの理智的な靑年は、政治的には左翼であらうと右翼であらうと、アメリカの最もすぐれた小說家の心理學に對してよりも、フリユードや、ワトソンや、パヴロヴの心理學に對して、一層大きな尊敬を持つてゐると云ふこと、スポーツが他の時代や國に於いては藝術的形式で現はれる精力に對して出口を與へると云ふこと、飛行士のリンドバーグや其の他の『英雄』が、新聞雜誌の捕虜になつて、小說や詩のどんな人物よりも遙かに多く一般人の想像を特徵づけたと云ふこと、さては、純文學は、依然として、小さな、あまり影響を與へない等級の仕事となつてゐると云ふことは、益々明かになりつゝある。

これは多分今日では合衆國に就いてばかりでなく世界の殆んどあらゆる國に就いて本當であらう。ニューヨークの或る文學出版屋は、最近フランスの詩人パール・ヴアレリイの論文を出版した。其の中で彼はかう言つてゐる。多分古い諸藝術が科學と機械の前に服從すると共に、文學はテニスとかゴルフとかのやうに、單なるスポーツになるかも知れないと。

（二）

次にアメリカ文學の左翼も、右翼のやうに、幾つかの注目すべき變化を通過した。ウイルソンが大統領になつてゐた時期に頂點に達した時代は、其の確立した諸線に沿うて今も發展し續けてゐる。勞働階級の生活を主題とした小說を書いて名聲を博したアメリカの唯一の現存作家アプトン・シンクレアは、今も盛んに書物を出してゐる。彼は此の國では依然として唯一の社會主義的小說家である。

彼の『石油』がボストンの官憲に依つて抑壓されたことは彼を文學上の石灰光の中に引き戻した。其の石灰光から批評家たちは彼を『宣傳者』に過ぎないと云ふ理由で追放してゐ

たのだ。『石油』は今ではブルジョア批評家にさへ賞讃されてゐる。其のうちの最も保守的な者の一人は、それをバルザックの作品と比較した。そして純文學を讀むアメリカの勞働者たちは、それを自分の僅かの古典の一つだと考へてゐる。同じ事は彼の今度の小説『ボストン』に就いても本當だ。

　これ等の作品が起した議論は、シンクレアに自分の社會哲學を解明する機會を與へた。シンクレアは二十五歳の時マルクスの公式を受け容れると同時に思考することを止した、と言つた一人の批評家に對して、彼はかう答へた。『私は自分をマルキシアンと呼んだことがあるとは思はない。そして私は度々自分の諸見解を變更したので、私の社會主義の同志たちは私を非常に賴りないと考へてゐるほどだ。私が二十五歳の時に受け容れたところのものは、マルクスのドグマではなくて、資本家社會の改造は革命的勞働者に依つてなし遂げられるだらうと云ふ一般的觀念だ。さう云ふ觀念はマルクスの財産でもなければ、私自身の財産でもなく、勞働者の一世紀にわたる運命の集合的叡智なのだ。』

　シンクレアは二十五年の間書き續けて來た。だから彼の作品は鑄型に嵌つてしまつて、現在では新しい傾向を啓示しない。同じ事は、家庭生活や、社會の外面に投げ出された敏感な個人の發展を主題とした小説を書き續けてゐるフロイド・デルに就いても言へるかも知れない。

　青年作家の中で、勞働階級の生活を取り扱つた小説を書いた者は一人あるだけだ。それは『ダン・ミンターン』の作者エム・エイチ・ヘッジスだ。此の作品は、自分の階級的忠實性と百萬長者の娘に對する自分の戀愛との爭鬪に引き込まれた勞働指導者の物語だ。

　勞働階級に屬してゐる青年作家の中で、最も有名なマイケル・ゴールドは、『呪はれた煽動者』と題する短篇小説集を出版した。彼はこれまでも二つの戲曲を書いた。メキシコの土地革命を取り扱つた LeFiesta と、ハーレムを取り扱つた、Hoboken Blues とだ。

　他の左翼作家たちは大抵詩か批評を書いてゐる。三つの最も野心的な冒險は、雜誌ニュー・マッシズの出版と、新脚本家劇場(New Playwrights Theatre)の創立とだ。バルティモーアで出版されてゐる、ヴィー・エフ・カルヴァートンの雜誌ザ・モダン・クオタリイも、政治的には左翼に屬してゐる。

　文學の社會的——時には社會主義的でさへある——解釋を

提供しようと試みた批評書を出版したアメリカの著作家は三人あるに過ぎない。第一の、『拜金藝術』と『金が書く』との中で『經濟的』解釋を書いたアプトン・シンクレアは、判斷が機械的で字義的だ。彼がゲーテを排斥するのは、ゲーテが帽子に手を觸れて皇子に會釋したからであり、ドストエフスキイを排斥するのは、『カラマーゾフ兄弟』が不愉快で、讀み終ることが出來なかつたからだ。『金が書く』の中でシンクレアは自分の概念を縮めて、文學の『經濟的』解釋に、字義通り、から云ふ事を意味させてゐるほどだ。即ち、詩人や小說家は、意識的に金のために自分のペンを賣つて、與へられた社會的及び、智的環境の純粹な製作品を書くことをしないと、云ふことを。

第二はフロイド・デルで、彼の『智的浮浪』は解釋の點ではより以上伸縮自在だが、範圍はより以上狹い。そしてシンクレアよりも人間的であると同時に、あまり主觀的なので批評の道具としては役立たない。

最後はウイー・エフ・カルヴアートンであつて、彼は文學に關する自分の觀點を二つの批評的著作、『新精神』及び『性と文學』との中で展開してゐる、これ等の著作の中で、彼は文學上の製作物を其の社會的背景に關係させようと試みてゐる。左翼團體の他の者等のやうに、カルヴアートンは十月革命から影響を受けた。私は『新しき批評の宣言』から幾つかの章句を引用する。それは彼が去年發表したもので、彼の思考の傾向を示してゐる。

『我々の時代は』と宣言は言明してゐる。『變化と革命の時代である。我々は大きなカタストロフか大きなルネサンスの黎明に臨んでゐる……驚くべき頽廢の徵候があらゆる區域に於ける我々の幻影を遮つてゐる。我々の社會的及び哲學的文學は既に我々の時代の臨終の歌を初めた。

多くの者に取つては、ロシヤが希望の信號だ。そこでは、我々の時代の、最も大きな、最も劇的な、最も廣汎な××が果された。全體的な新文化が、活動的な、動的な進化過程にある。其の顏は新しい未來に向けられてゐる。讓歩や妥協にも拘らず、其の新しい經濟狀態や、新しい教育や、新しい藝術や、新しい社會生活は、闇に輝く隕石のやうに、使ひ古された文明の上に突如として現はれた……我々と對立してゐる社會的禍患に對する鬪爭に於いて、新しい態度が徐々として我々の時代精神の内部に浸透しつゝある。我々の時代を强

固にして其の大事業を行はせるであらうところのものは、此の態度の生長だ。此の態度は、新しいリアリズムだ。それは急進的だ。それは革命的だ……希望の詩や進歩の哲學を持つてゐる十九世紀は理想の時代であつた。新時代は理想無き時代と呼ぶことが出來る……我々を理想なき時代に突き入れたのは世界戰爭の二番刈りであつた。理想無き時代と云ふ言葉で我々は何を意味するか？　理想無き時代の役割として、我々は何よりも先づ修辭學や感嘆詞を棄てた。我々は愛や眞理や正義のやうな理想の叫びを、輕蔑して默殺した……我々はお說敎や抽象を嫌ふやうになり、言葉や身振りを嫌ふやうになつた。

『理想無き時代の人々は』と宣言は續けてゐる。『愛を語らないで社會的條件を語り、平和を語らないで經濟的改造を語る……彼等は倫理的なクラブでなしに勞働組合を組織し、迷信でなしに科學を敎へ、宗敎でなしに經濟學を論ずる。』

然しカルヴアートンが『我々の××的宣言』と呼んでゐる此の批評の宣言の何處かに混亂の響きを發見することは、可能ではなかつたらうか。と云ふのは、どう考へても、現代は理想無き時代ではなくて、反對に、地上に實現し得る理想と



云ふものが存在する限り、現代ほど『理想』に豐富な時代は無かつたからだ。

『理想』とは、階級的目的の、想像的未來への投射だと定義することが出來る。最も密かな個人的『理想』も此の定義に屬するであらう。何故なら、個人的野心及び大望は、人間が存在を保つてゐる階級の諸標準に根ざしてゐるからだ。此の意味で、我々の時代は二つの巨大な社會的『理想』に依つて特徴づけられてゐると斷言していゝ。一つは、フアッシズム、卽ち、帝國主義的ブルジョアジイに取つての、想像し得る最高の權力、そしてもう一つは、コンミュニズム、卽ち、人類大衆に取つての、想像し得る最高の自由である。

譯者附記、此の論文はフリーマンが去年の八月及び九月にアメリカのコンミユニストの雜誌『ザ・コンミユニスト』に發表した『アメリカ文學に就いての覺書き』から、最も面白さうな二項を選んで譯出したものである。彼が現代の社會的理想を二つに限つたことに對しては、多くの者が反對意見を持つてゐるが今は此のまゝにして置く。

×　×　×

## 職業婦人協會

——會報發行——

職業婦人の問題がジャズの騒音の中で、未だずい分と興味本位に、不まじめにとり沙汰されてゐると思ひます。然し、本來の職業婦人問題はそんな處に決して存在しません。

時代の尖端をゆく職業婦人よ。あなたは、今の社會でどんな立場におかれてゐるか？ 朝夕にあなたの上に去來する當面の問題は何であるか？ 職業婦人として共同の立場に立つ者同志のかたき團結を以つて、われらの地位を守りませう。

今すぐ職業婦人協會にお入り下さい。

（共濟基金として會費月十錢）

## 婦人消費組合協會

——毎月「婦人と家庭」發行——

家庭婦人としての私たちの日常の問題を、わが婦人協會は解決づけてゆかうとするのであります。消費者としての一般婦人の問題、家庭の管理者としての主婦の問題、子供の母の問題、それらは又、ひいて廣い社會の全體に通ずる重要な問題であります。

最も重要にして最も切實な私たちの問題——而も、多くの婦人運動家たちに依つて最もなほざりにされがちだつたかういふ問題を中心にして働かうとするのであります。

どうぞ入會して下さい。（會費一年に一口五十錢）

## 第二回婦人講座開催

主催 婦人消費組合協會

さわやかな新綠の頃、玆に第二回目の婦人講座を催します。左記の日程に依りますから皆樣誘ひ合せて聽講して下さい。

五月九日 兒童用品消費組合の研究 辻 誠氏

同 十二日 資本主義社會に於ける政治と經濟 鈴木茂三郎氏

同 十六日 モスクワ系消費組合とロッチデール系消費組合 山崎勉治氏

同 十九日 物價の話 牧野輝智氏

同 廿三日 婦人と消費組合運動に就て 奧むめお氏

（但し、この日は全員の懇親會、奧氏の司會にて第二回講習會の結びとしたい豫定であります。）

場所 牛込區神樂坂下 產業組合中央會內

聽講料 金壹圓（部分聽講も出來ます。一回券三拾錢です）

お問合せ及びお申込は左に（市電、省線ともに、市ケ谷下車）

牛込區市ケ谷本村町四

婦人消費組合協會

# 私鐵疑獄事件

昨年來世間の視聽を欹てゝゐた小川鐵相一味、及び引續いて小橋前文相、佐竹前鐵道政務次官等の所謂私鐵疑獄も愈々先日豫審が結定され、有罪と認めらるるに至つた。

この種の事實を前にして、我々の考へなければならない事は、大臣と云ふやうな國家最高の官吏が、その位地を利用して巨萬の金を收賄した、と云ふ單なる眼の先だけの驚きに迷はされて、その背後の重大な問題、即ち現在の大政黨がどんな風にして成立つてゐるかと云ふ根本の問題を見落してはならない事である。

政友會にしろ、民政黨にしろ、あれだけの大政黨を支持し、總選擧毎に、數百萬圓或は數千万圓の金を支出するその財源が、一體何處から湧いて來るか、貨殖を目的として成立つてゐる營利會社、資本家が、何の目當てもなしに、さう／＼金を政黨に注込むと云ふ事は誰が考へても考へられない事だし、私財を摺減らす爲めに政治運動に投ずるやうな特志家が、今の政友會や、民政黨にざらにあるわけのものでない事は、解りきつた事だとすれば、最早考へる余地のない事である。

から考へて來ると一小川、一小橋の瀆職罪の如きは寧ろ渺たる小問題で、偶々、政界に附物の所謂政黨間の泥仕合からその端を發して、芋蔓式にその一端が明るみへ出たまでの事である。

政治家がその政黨内で勢力を得る爲めには、自分の地位を支持する多くの乾分を持ち、それに選擧費用を支出し、黨費を多額に分擔しなければならない事は、現在の既成大政黨の組織そのものから見て、極めて當然の事で、小川前鐵相の場合の如きも、今度の瀆職事件は政友會の事實上の副總裁として、不評判な田中前總裁の沒落後の自分の地位を豫想しての、急場仕事であつた事は、想像するに難くない。たゞやり方が余りに性急であり、露骨であつた爲めに、偶々政權を得た小數黨としての民政黨内閣が、次の總選擧を當込んで、自黨保善の爲めにその罪狀を摘發したと見るべきであらう。さうして小橋前文相の場合はその對抗策としての政友會のしつぺかへしの結果と云つても不當ではなからう。

要するに此問題は、前大官の瀆職と云ふ事實に驚かされてゐる民衆が、これでも未だその背後に潜む既成政黨のからくりに氣附かない、自分達自身の迂遠さに驚く事によつて、遙かに重大な意義があると云はねばならない。

# 東京市は果して復興したか

陽春三月盛大な復興祭が行はれて後、僅かに數旬、市民の頭から未だ御祭り氣分の拔け切れない時に、市大疑獄、前市議二十九名、其他二十名、有罪の豫審決定書が發表された事は皮肉と云へば、隨分皮肉である。

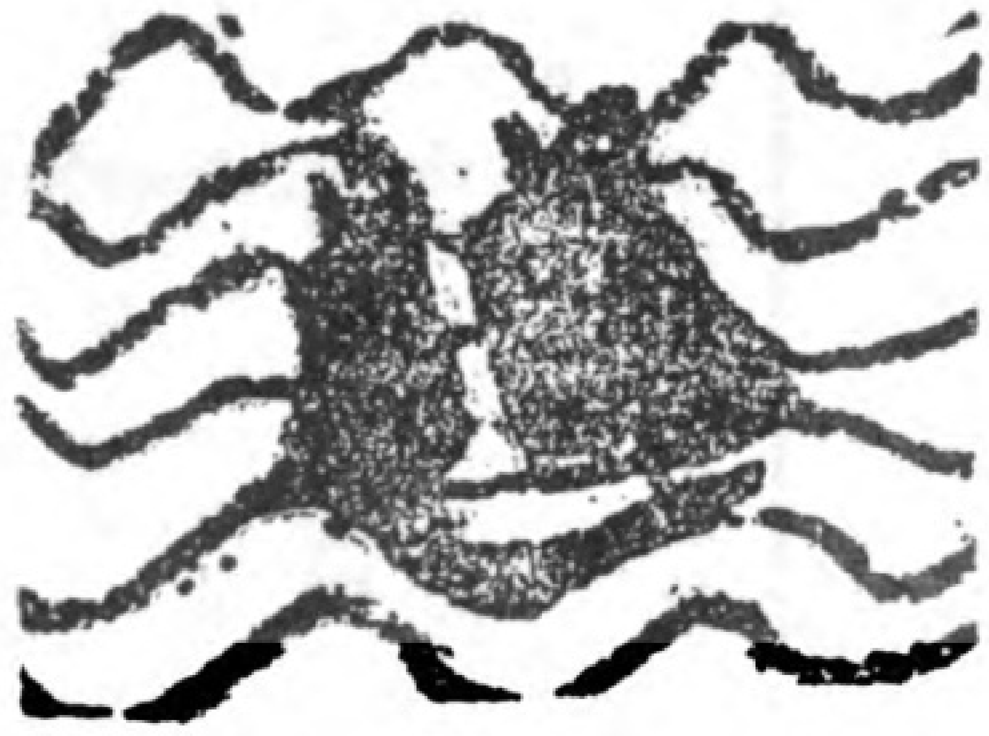
然もその中には市政の大御所と云はれる民政、政友の各勢力を代表する二代議士、先頃の總選擧に、保釋中にも拘らず立候補して、引續き見事に當選した現代議士が居るに至つては、市民の頭の健在を疑つていゝのか、それとも疑ふ者の頭が狂つてゐるのか、天に向つて借問したくなるではないか。

十年に一度東京名物とまで云はれてゐる市の疑獄が那邊に存在するか、五月鯉の吹流し、いかに健忘症を自慢の東京市民と雖も、大震災を覺えてゐて復興祭をする位だから、自分達の選出した市會議員の約半數が市の公器を勝手に亂用して、瀆職を敢てした、昨年の出來事位は覺えてゐるさうなものである。さうして今村地震博士の發表に留意する十分の一位の注意を以つて、自分達の日常座臥の生活に直接關係のある、市の疑獄原因について考へて見さうなものである。

五錢、十錢の金に目の色をかへてゐる一方板舟權、青物市場權の補償金七十萬圓を市から持出させたり、京成電車で十五萬七千圓附賄い世話をやいたりする歷々を、市會の元締とし、市民の代表として重ねて議會に送る。これで東京市が復興したと云ひ得るのなら、地震の親元の大鯰でも復興都市の地下に飼つて置くがいゝ。

が、此場合地震が起きてから、その罪大鯰にありとは斷じて云ひ得ない。自己の代表者として瀆職議員を選び、更に瀆職代議士を選んで、その怪腕を縱横に働かせんとする者は實に市民その者であるからである。

橋梁の美、建築の壯、道路の完備を誇る東京市、汝は果して復興したか。それ等の物を採る自治機關の中樞に横はる大鯰をどうしようと云ふのだ。（奥）



# 所書の無い手紙、其他

葵 イツ子

一月下旬から約一ケ月、關西の或る都市に居た。その間に幾回となく見知らぬ婦人が駈け寄つて來て聲をかけて下すつたり、名も所も秘めた手紙も五六通配達された。

逢つた人達は大抵二十歳前後の方であつたから、恐らく御手紙を下すつた方もその位の年齢であつたらう。その人々は皆「どうぞ思ひきり奮鬪して下さい」といふ意味のことを言つて勵まして下さる。さういふ心持ちであり乍ら、どうしてその人々は所書を書くことも出來ないのであらうか。それは、父とか夫とかの存在する爲である。父でも夫でも若し女性に自由を與へる人であれば問題は無い。徒らに家の中へ閉ぢこめて、あの若い潑溂味を漸次に腐らせる精神的殺人行爲を、しかも良い保護者の心算で犯して居るものである。

父の蒙を啓け!! 夫の蒙を啓け!! 現代の女性は出發前、旣にこんなに煩はしい惱みを背負つて居る。疲れて仕舞はないで何處までも進出したいものである。

私はまた新しい一人のお友達を得た。その婦人は餘りにも敏感である。彼女は實に不自由の無い境遇に居て、獨りで、机の上で左翼へ走つて行つた。彼女の純眞な正義觀は、彼女達の階級にとつて都合のよい現在の社會を憎しみ、この狀態を變へる爲にいつでも犧牲を拂ひ得るやうな氣持ちになつたものである。

彼女は怒りの爲に涙ぐんで仕舞つた。それは始めて多くの勞働者に近づいた時であつた。今までは、この社會の文明を支持して實際に働いてゐる勞働者へ、遙かに感謝を捧げ敬意を表して居たのである。そして、次の完全な社會の基礎とな

るべき人々であるといふこと、その日を迎へる爲に努力して居るといふことに對しても感激して居たのである。

然るに、彼女が、その親しみを持つて現れたに關はらず、勞働者の群は幾度出會つてもより悲しみを增させるものであつた。その一群の勞働者は、よく仲間喧嘩で血を流した。それから、誰の所持品でも構はずに、盜むといふのではないが、よい傘を見れば持つて行く。よい下駄があれば履いて行つて了つた。大きい物を持つて通る時に、通り道に人が居ると、少し脇へ寄つて欲しいといふ氣持でも强い言葉を使ふ。

「おいどけ、直ぐに退かんと殺して了ふぞ」といふ工合であつた。隣人を愛し合ふことなどは無い。利己主義である。そしてそれを自由とか、幸福量の公平な分配といふ風に理論づけてゐる。

彼女は全く悲しんだ。これほど公德心の無い人々を見たのもはじめてゞある。强い者ばかりに都合のよい自由競爭であつて、彼女のやうに弱い者が協力しやうとでもすれば、どんなに哀れな日に遇ふかも知れないと思つた。

そして、長い間放浪して居た自分の心が、故郷の家に歸つたやうな嘆息を洩らした。

「私は恐ろしい現實を見ました。まあ、あんな人達が社會を司配するやうにでもなつたなら、私達はどうなるんでせう。そして全社會も今日の狀態よりずつと慘めになるかも知れません。若しあの人達が今直ぐ社會の司配者になつたなら、私は外國へでも逃げなければなりません。」

その後幾日も、彼女は默つて考へ込んで了つた。そして次に逢つた時には斯う告げて居る。

「あの人々が勞働者の全部を代表するもので は無からうと思ひます。吃度、もつとよい人々がある筈です」

正しい思想で集つてゐても、個人的に人格を高めて居ないと、來る人を追ひ散らして了ふことになる。彼女の心情はまた他の人の場合をも想像させる。虛禮は棄てるべきものであり、永遠に必要な公德心はまた守つて欲しいものである。

勿論私もこの時彼女と同じやうに動搖し、その氣持の響き合つたことで、どんなに苦しみから助けられたかも知れない。

歸途岡山に寄る。何處か見物しやうと思つて尋ねると、どの土地でも大抵さうであるが、迷信を利用して名所を作つて行つては段々に大きくして了つた樣なところが多い。行きか

けて途中から引返して了ふ。然し、小林寺の五百羅漢は名匠の作であるといふので行つてみた。市の東端、六高裏にある。薄暗い建物の中に、等身大の羅漢百四十五基がある。木像で、色も自然に近く、表情も誇張なく、氣品もあつて實に美事なものであつた。その建物の一隅を見ると、古くなつた掲示板が立てかけてある。不圖それを讀むと、よく露骨に營業の經過が現れて居る。

天明年間に、當時六世の態嶽といふのが、國家の安寧を鎭護し、四民の福德の爲にと稱して、東都から名匠を招いてこの羅漢像を彫らせた。そして巧妙なのは、一基出來る毎にこれを背に負つて街を歩いて宣傳し、所謂淨財を求めたのである。

世人は思つたであらう。「あゝまた出來た。今度のは手つきがこんなに違つてる。眼があゝなつてゐる……もう大分澤山な木像が出來た」その僧の廣告振りも變つてゐるし、同時に集めた金で次のを作つたのは、經營上手である。

次の行には少し哀れなことが書いてある。それは維新後は寺祿が絶へたので住僧無きこと數年、堂宇も、荒れるに任せた。故に百世保存の靈殿建設の爲に喜捨をして呉れといふのが、この掲示板の要點である。寺祿が無くなれば僧は居なくなる。實に明らかに寺祿に巣くふものであり、また、見物を惹きつける商賣道具としての羅漢であり、上手に廣告しての名所である。

名所は自然に出來るのもあらうが、誰かの手段であることもある。

東京に歸つてから、地質學の通俗講演を聽きに行つた。斯界の權威今村明恒博士の御話を伺つてゐると、全く東京に居ると總てに便宜が多くて良いと思つた。だが、見ると千餘の聽衆の中に婦人の數は非常に少ない。或ひはこれが通俗講演である爲、平素興味を持つて居ることは、もつと專門的な書物でも讀む方がよいと思つたのかも知れない。或ひはまた例の父とか夫とかに妨げられて夜間の外出が出來ないのであらうか？

これとは少し意味が違ふが、以前營養學の講演を聽いた時には變な氣がした。近代的な婦人は一人も見へないで、殆ど中性のやうに頭髪も服装も無雜作で、舊時代趣味で固めた婦人ばかりが集つて居た　吃度私もその一人であらうと思つて

苦笑して居たものである。あのモダーンな人達はいつたい何處へ行つて了ふのであらう。地震の心配をしたり營養のことを氣遣つたりなんかするのは、舊式な婦人に限られて居るのであらうか。

若さに躍る人達にも少し振返る瞬間もあつて欲しいやうである。

洋裝は良い。斷髮は良い。新鮮で活動的である。然し、私は足をどうかと思ふ。外人のお婆さんの足は大抵酷い不具のやうな格巧であるといふ。靴を履くと、足の形が惡くなるので、靴下を取ることを恥ぢるといふ。それに外人に足の病氣が多く、日本に少ないと言つて居たのは、外人はスカートが短かく、靴下ばかりでは保溫が出來兼ねるからであると聞く。

あの形の良い服裝、そして手足を自由に動かせ易い服裝、あれを我々が手にする前に、衞生の點を考慮して、早く何とか案を加へて完全な人間の衣類にして用ひたい、また衞生には無帽主義がよいことなども思つて、調和の取れる髮の結び方も案出したりなど、種々の試みがあつて欲しいものである。

## 軍縮會議の正體をみよ

英國政府の勸誘に依つて今年の一月廿一日からロンドンで開かれてゐた軍縮會議は、いろ〳〵な低氣壓をはらんでゐた爲成行を案ぜられゐたが、曲りなりにも協定をとげて參加各國の調印を了へた。軍縮會議の申合せの結果浮び上るところの財源は、必らず國民の負擔を輕くするために減稅の實行にあてよ、といふことは今、國民全體の要求してゐるところであるが、然しこれは國民が軍縮會議の効果に過信してゐるからであにて、この會議の結果實際に實現されさうな經費節約は殆んどありえないのである。

即ち、一九三六年までといふ期限つきの今度の協定とに依つて決つた米國に對するわが日本の軍縮協定割率は

| | |
|---|---|
| 大型巡洋艦 | 對米六割强 |
| 驅逐艦 | 同七割强 |
| 輕巡洋艦 | 同七割强 |
| 潜水艦 | 同十割强 |

といふのであるからそれだけにすめば保留財源の關係から一ヶ年約八千萬圓程度の節約が出來る筈ださうであるが、會議は、造艦能力を維持するために從來よりも艦齡を短くしてどしどし製艦することになつてゐる由で、これに對する豫算が一ヶ年平均六千萬圓要る。結局差し引二千萬圓内外は浮び上るかといふに決してさうでなく、形式的には前記の樣に多少軍縮の實行申合せをしてゐ乍ら、その埋合せとして外の方面で、航空隊だとか要塞だとか特務艦だとかの新軍備の充實をはかつてゐるのだから、ブルヂョア國家の外交辭令的な軍縮の正體はこんなものである。



# 屋根なしホテル

生田花世



私はそこの松の木のかげにたたずんだ。午後四時頃のことである。西にかたむきかけてゐる日かげが窪地の半分と、向ふ山の全面と右の方の青い海面の方へとふりそそいでゐる。白い帆がいくつも見える。淡路島の方もはつきりと浮んでゐる。その村落の煙も見える位だ。こんないい風光をぢつとながめてゐると心の中でしみじみ死んだ叔父がいとしくなつて來て、眼がしらのあつくなるのを感じた。

「さて……どこへいつたのだらう？」

叔母の曾技子がゐなくてはならない。『いなり山第四號地』のその崖つぱなの家は戸がとざされてゐて、おまけに門札さへもかけられてゐない。家をまちがつたはづもないのだが、いつも病身でめつたに外出しさうもないその叔母——未亡人さへもゐないのだつた。

松の木の下をはなれてとう／＼私は、坂を下りてゆく途中、右側にすばらしい三階の丁字形の大きい建物があるその草のはえしげつてゐる建築用地へ足をいれた。そしてそこの捨石に腰をかけてつく／＼とこの大きい建物を見た。屋根が半分どほりふいてはあるが半分ない、ガラス戸が少しもとりつけられてゐないので、こちらの窓からむかふの窓をこして海の青い色が、額縁にでも入つたやうに見渡される。私はたいくつしのぎにこの幽靈屋敷のやうな屋根のない建物のそちこちを歩いてみた。何ともいへず荒涼とした感じである。『いなり山第四號地』とこの下の方のたばこ店できいた時、『ああ、それは屋根なしホテルの上の方です……』といつて若い男がをしへてくれた、その屋根なしホテルといふのがこれなのだつた。いつからかうして建ちぐされになつてゐるであらう。煉瓦の下の方は苔さへむしてゐるのである。

もう少し、もう少しとおもひつつ、私は、夕日が向ふの山の半分にしかあたらぬやうになり、海も、鳥も、ややあを暗く

なりさうな時刻までこの屋根なしホテルの中にゐた。しかし、夜になるまでこゝにゐるといふわけにもゆかないので、その用地を出て坂を下り切り、踏切をこえて、海岸ぞひの國道の方へ下りて半丁位歩いてゆくと、むかふから、母と娘がいそぎ足にやつてくる。

『叔母さん……夏子さん……』

まろび出るやうな聲で私はよびかけずにはゐられなかつた。

感情のこもつた一とほりの挨拶をすましながら、三人は崖ばなの家へと坂みちをのぼりはじめた。さつきまで入りこんでやすんでゐた屋根なしホテルを見て私は云つた。

『これはどうした家でせう？』

『こゝですか、これはなくなつた叔父さんが……』

叔母は自分の亡夫のことをかういつた。

××といふ人と××といふ人との共同經營であつたこのホテルへ去年の夏中、大工の監督にかよつてゐてかうして屋根が半分出來るまでになつたのですが、經營者の一人の××さんが亡くなつたために、こんなままですてておかれてゐるのだといつた。

それでは叔父が、やはりこの變なホテルにさうした關係をもつてゐたのかと私はうらわびしい心持がして、ガラス戸の入つてゐない二つの窓をとほして見える海を見た。

『ねえ、お母さん、お父さんも此ホテルが出來上つてからなくなればよかつたのに……可哀さうなお父さんでしたわね』

と娘の夏子がいつた。神戸のある工場の事務課の方へとつとめに出て、そのサラリーで母の生活をささへてゐるこの娘の心持には父へのあはれみが一杯わいて來たらしかつた。

叔父は家も半分見のこし、自分の娘の生活も半分見のこして死んでいつたのだ。

崖ばなの家は、大雨でも降れば崖くづれに出あひさうな古家で、戸がガタピシかたかつた。

『こんなひどい家で……ほんとにびつくりなすつたでせう』

と叔母はいつた。私は急には中に入られなかつた。あまりに中が暗かつた……だが夏子の若い白い顏がその中で動いてゐたのだ。若い娘はいいなとしみじみおもはれた。

『叔母さんも夏子さんがあるのでお心づよいでせう』

と私は叔母にいつた。

夏子の顏はうすぐらい電燈の下で健かで血色がよかつた。

# 春の詩

加賀谷政子

×

ジヤボジヤボ
ジヤボ、、、
今日も朝から雨
雨もりのひどい
家を出て六時間
どろ靴の足は
すつかりくたびれた
今日も
失業者の群は
街頭で戰つてる
世紀末晩鐘の
鳴るのもぢきだ
――はるか向ふに見ゆる――
小高いビルヂングは
俺の永久の
墓標なのだ

×

春
青い水の上を
若い
インバイ婦が
タララ、、、タララ
船をこいでゐる

×

ギラギラギラ
お天とうさまは
黒い墓場を
てらしてゐる
花ぐしを一本づゝさした
鼻タラシの女の子は
マ、ゴトの
父さん
母さんの
お遊びだ

×



# 飛躍だ

武内利榮子

雨や風や
陰忍の長い幾日
土手の柳は青々と
風にたわむれてゐる。

さびしい葬列の一組がゆく
雨にぬれた棺の上を
燕がスイスイとび去つた

泥濘に汚れたボールが一つ

灰色の空をめがけて飛び上る
飛躍だ、飛躍だ、
葱畑で雨の拍手だ
こだわらない
　爽快さ……。

# 友よ見るか？

池昌洋

にぎやかな洋館の
大きな正門の前に
縮坐した乞食の眼から
流れ落ちる涙を——
友よ！　君は見るか？
腐れたる草屋の
たゞ　ひとつなる　へやに
飢えに　くるしむ
小供の泣く聲を——

友よ！　君はきくか？
くろ暗い工場の
恐しい輪轉機の間を
汗ばんでまわる
父母の　兄弟の　姉妹の
蒼ざめた顔を——
友よ！　君は見るか？
乞食の涙！
小供の泣く聲！
蒼ざめた工夫の顔！
見れば——
聞けば——
友よ！　君の心臓にも
熱血は湧立つだらう！

# 女は叫ぶ

篠島古代

飯を焚いて洗濯をして子供を生む
これが女であると誰が云つたのか
シヤレた着物も何も彼も
みんな！　みんな彼女を悲しい奴
隷とするのだ
神代の話に何とあろうとも
女は女　決して男性の奴隷ではな
いのだ
彼女たち！
私と性を同じうした彼女たちよ
飯を食ふなと云ふのではない
子供を生むなといふのではない
せい〴〵外に出て
からりとした空をゆく雲の自由と
なるのだ
せい〴〵娘時代のやうに
眞赤な　ほゝに
思ふまゝな笑ひを作らう。

# 婦人運動ニュース

## 温情主義の本質曝露

――鐘紡の女工起つ――

景氣のよい時には十幾割、昨今のやうに不景氣のときでも、三割以上の株主配當をつゞけて、紡績界に君臨してゐた鐘紡では、御自慢の溫情主義、大家族主義をうら切つて、ほんとうにだし拔けに、職工の給料の三割近い減給を云ひわたした。株主への利益配當とか、重役の手當とかには少しも手をつけないでゐて、薄給の職工雇ひ扱のもの丶頭をだけはねることにした。その態度に無産者がだまつて從ふ筈がないことはあまりに明らかだ。鐘紡に雇はれてゐるもの丶全數三萬五千人の內、八分迄女であるが、こゝに、敢然として鬪ひの火ぶたが切られたのである。アンチ(反)鐘紡運動に無産階級は奮然として結束した。資本家が　ロコツな攻勢に出て來る前哨戰ともみるべき鐘紡とのたゝかひに、ぜひ共戰つて、階級的利害を守らねばならぬからである。



(泣いて會社側の不誠を怒る)

## 男女共學の叫び

女だからといふ差別のため、同じ大學の過程をふんで月謝を出して勉强をしても、男と同じ資格を、決して與へてくれぬことにふんがいして、女子の大學聽講生が抗爭を初めた。男女教育機會均等促進會が出來たのである。六十五名の在學生が、みんな實行委員になつて、こん後文部當局へもつめかけて、大いにたゝかつてゆくといふ。

降りしきる雨の中を三十五六歲の狂女が走りまわつてゐた。「おゝ、お腹がすいたか、かはいさうに」とくり返しながら――夫が失業して幾日も／＼五人の子供に食べさせるものさへなく、腹がへつたようと泣きせがまれてゐる內に、つひに發狂したかはいさうな母である。

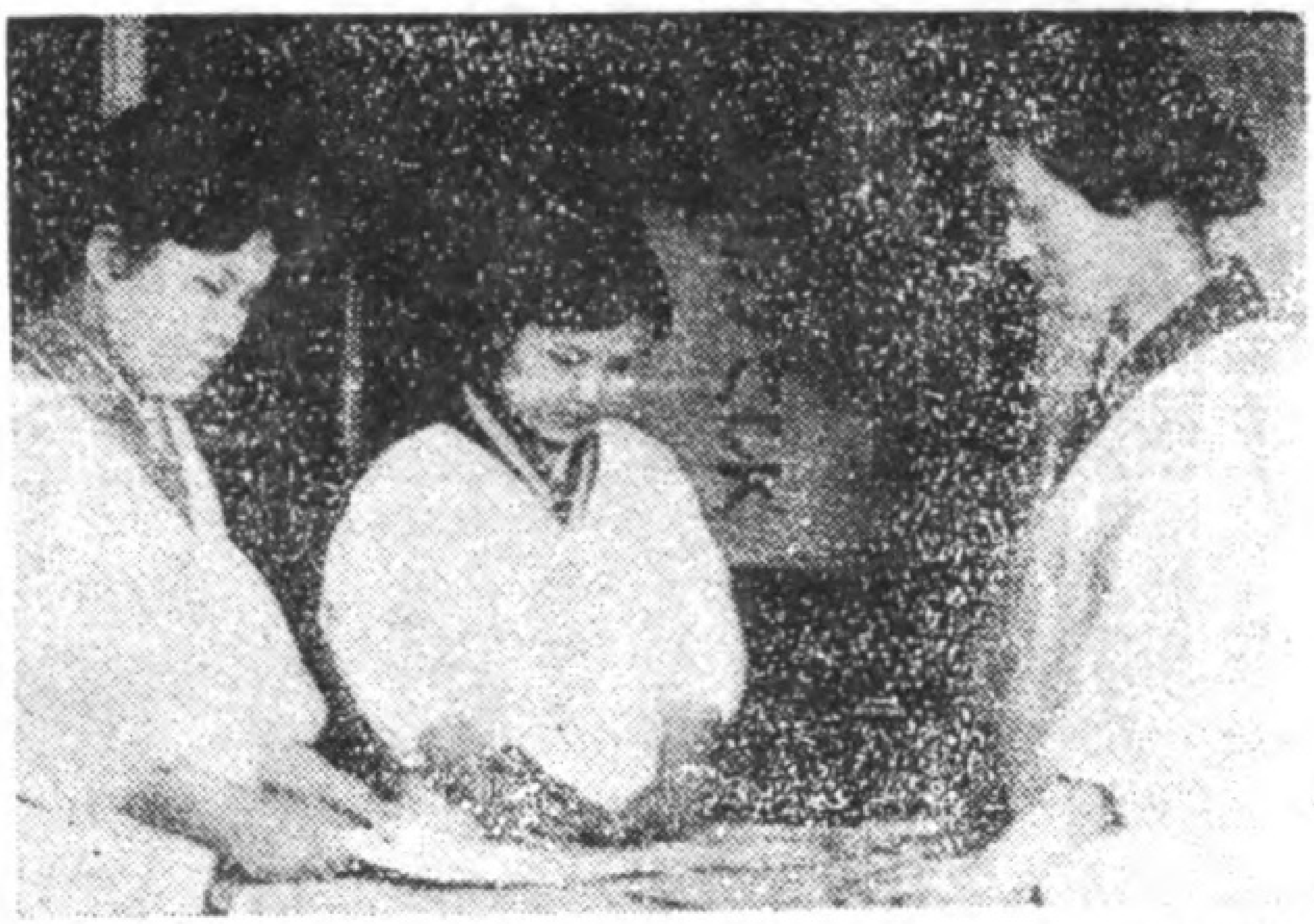


## ある對話

小都會の女學校の教員室で

A――當校の教頭
B――若い女教員

A――私は此頃つく／＼考へて見るのですが、どうもこれまでの教員のやり方は不味い。ことに科學の面は進歩が著しいからうつかりしてゐると時代おくれになつてしまふ。我々はよほど注意して新智識をとり入れて、なるべく生きた學問を生徒にさせるやうにしなければならんと思ふ。それには、教師自身の勉强が大切だ。さう思つてやつてみますが、實際骨の折れるものですね。



## 營養食堂の試み

佐伯博士の榮養研究所の卒業生三人が、けなげにも街頭に進出して、ならひおぼへた榮養學で、學生さんによい食物を供給しやうと、食堂を開いた。早稻田大學四萬の書生さんを相手に。ニユートリツシヨンハウス（新榮養軒）

## ◉東京市電車總罷業か？

去年の暮に全市にわたるストライキをやつて、未だすつかりと解決をみないでゐた、東京市電の從業員東京交通勞働組合では、中央委員會の決議に依つて、要求書を作成、賀局長に回答をせまつた。從業員側の要求といふのは、次のやうに、七ケ條にわたるものであつた。

一、賞與を一割減らすといふことに反對

二、震災手當を即時に支給せられたし

三、こないだ首を切られた臨時技工六十名に對して、もつと解雇手當をますこと、同時にこんご絶對に首きりを行はないやうに

四、停年制に依つてする少年車掌の解雇をやめよ

五、退職手當の一時金と年金に依る支給とを隨意にせんたくさせよ

六、電車課に併合される車輌課の從業員の步合六厘減給に絶對反對

七、軌道從業員の步合を減らすこと反對（不當な處罰反對）

然し、電氣局側ではほとんど全體にわたつて之を認めない。認めないばかりか、いよ／＼ストライキに入つた場合を豫想して、着々と對策をとゝのへてゐる。罷業をやるならやつてみろ、そんなことをしたら、今度こそ徹底的に組合を潰してしまふぞ、といふ腹である。どうせ緊縮の折柄、かねて二五〇名（二割ほど）の、首きりの機會をねらつてゐる矢先きでもあり、失業者巷にあふれて、氣の早い連中はすでに、ストライキでも初まつたら、早速補充に使つて下さいといつて、數百人申込んで來てゐるといふ、（階級的裏切者奴！）當局ではどし／＼これを採用する筈。

B――本當に。私共も始終勉强したいとは思ひながら、仕事に追はれてなか／＼思ふやうに出來ません。生徒に質問されて氣がつくやうなことがよくござゐます。皆が先生のやうに考へてゐれば價値のある教育が出來ますでせうに。

A――いや、どうも恐入ります。實は、これはほんの最近氣がついたわけなんで。まあ新發見と云ふわけです。まづラヂオの說明からと思つてこの問やつてみましたが、生徒は非常によろこびますね。

　まあ一つあなたもかういふつもりでやつてみてごらんなさい。

B――さうでござゐますね。讀本だけがよめても、新聞や雜誌が讀めないやうでは困りますから。私の理想を申せば一週に一時間はさういふ常識養成の時間として使用したいのでござゐます。然しいろんな都合で今の所隨時にわからぬ言葉にだけを質問させてをりますが、この間もストライキ

## ◎女中さんは何が辛い

### ——社會立法協會の調べ——

失業者があふれてゐるといふ世の中に、これは又不しぎ、どこの家庭でも女中がなくて困るといふ嘆聲！

社會立法協會の婦人委員會では、女中とか、小店員とかの住込み、被傭人の勞働狀態をしらべあげて、輿論を高め、内務省社會局とも提携して、保護法律の制定にまでこぎつけ樣として、各方面の女中に質問書を發した。あなた方は一番に何が辛いか、と。

一、のべつ幕なしにこき使はれて、自分の時間といふものが少しもないのが辛い。

一、夜おそく、朝早く、睡眠不足だ。

一、子供が横暴でたまらない。

一、あまりに女中であるといふ差別待遇がひどすぎる。

あなた方は、どんなことを希望するか。

一、月一回位せめて公休日がほしい。

一、勤務時間を一定してほしい。

一、一日の内にも幾時間か自由にほしい。

一、少くとも九時以後にはねたい。

一、も少しよいものを食べたい。

一、裁縫や料理が習ひたい。

一、勉強がしたい。

一、呼び捨てにされたくない。

一、自分の給料を自分に貰つて自由に使ひたい。（これは前借による者）

一、女中にも勞働組合を作つて地位向上のため團結したい。

一、勤續年限や、つとめ振りに依つて昇給してほしい。

一、女中なんか、みんな失業してしまへ。

### 貰ひ兒地獄曝かる

市外板橋の乞食村に、聞くも恐しい貰ひ兒殺しがあばき出された。この邊では三十圓、五十圓と金子をつけた貰ひ兒を周旋して貰ふと、部落全體が成金氣分でお祝ひをして酒をのむ、菓子を食ふ、うたふ。そして子供には榮養不良、過失致死、消化不良で死ぬ樣みちびくのだといふ。目下嚴重とり調べ中。

### 消費組合婦人の活躍

東京家庭購買組合第二回婦人大會が開かれた。集るもの百三十人、四班に分れてそれぞれの活動を進めた。第二支部は、全然婦人の力で出張店舖を造つて之を維持するために三〇〇人の組合員増加の實行に入つた。第四支部の婦人會館建設計畫は、もう八分通り實現の域に來てゐる。その他の支部も消費組合婦人運動に、隨分と熱心である。

とかデモンストレーションとか言ふことばをもち出して來て一時間とう〳〵それですんでしまひました。

以前から伺ひたいと思つてゐたことですが、社會主義だとか共産主義だとかいふ言葉はどの位の程度に説明するのが適當でせうか。

A——そんなことばは敎科書に出てゐないんでせう。

B——生徒が質問した場合は？

A——説明はもつと大きくなつてから聞かせてやるからと云ふんですね。

B——生徒はそれで滿足するでせうか。

A——とにかくこの場合、危險はさけた方がいゝ。

B——學校で答へを與へられなかつたならば必ず彼等はそれを他求めるでせう。そして大低の場合彼等の得る智識は出たらめな無責任なものです。眞實を知らないことこそ危險ではありませんかしら。それに、私は國語の敎師としてそれ位のことはしてやるべきだ

# 臨時議會來る



總選擧のあとをうけて、臨時議會が四月二十日から開かれる。隨一の野黨政友會も弱すぎるし、無産黨の合同も中々ものになりさうにない。絶對多數を議場に占めてゐる民政黨内閣の思ふまゝの、獨り舞臺に終るであろう臨時議會。（寫眞は議席の用意）

國民は議會を監視しなければならぬ。

## ◉全國農民組合大會終る

深刻なる農民の生活苦を、前にして、いかに闘ひすゝむべきか。全國農民組合大會はこの重要な時期に、大會をすませた。次のやうな建議案と宣言を萬場一致可決した。

一、土地と自由の確立　一、養蠶農民の救濟　一、農民の戰線統一　一、農民の借金支拂を猶豫させる運動　一、農民運動犠牲者救濟の機關設置　一、小作法案の對策　一、土地とりあげ、立入禁止反對運動　一、強制産米檢査反對　一、悪税反對　一、協同組合の確立　等々。

### 宣言

資本の總攻勢を前にして、勞働者と農民の親密な接合、勞働者と農民の戰線を、完全に統一して、組織的にすることは、解放のために必致の道程である。

依つて、わが全國農民組合同盟は、他の團體の無産者團體と提携協力して、その接合淨化のために、勢力的努力を惜しまないものである。

なほ中央執行委員長に、杉山元治郎氏。常任中央委員長に小岩井淨氏が推された。

## 婦人新聞、婦人雜誌の進出

「婦女新聞」紙は、週間の婦人新聞として、三十週年の記念祝宴を、五月十日に開催するといふ。「婦人毎日新聞」は創刊一週年後のこの頃、株式會社組織になつたが、主幹として山田わか女史を迎へた。

なほ「女人藝術」が共産主義系の思想を多分にもつて編輯されてゐるのに對立して、無政府主義の旗印のもとに「婦人戰線」が發刊された。

文筆の上における婦人の進出振りはめざましい。

---

と思ふのでございます。その主義の善し惡しを言ふのではなく、一つの國語としてその説明をしてやる、それでもいけないのでございませうか。

A――まあ、その話はいづれ職員會で相談するとして、それ迄はさし控へてゐて下さい。あゝさう〳〵、そんな質問をする生徒があつたら名をかきとめて置いて下さい。

B――智識は今必要なのでございます。新聞雜誌をみるのにそれがわからないと早速こまるのです。何年ものばして置けばそれこそ時代おくれになつてしまふでせう。今先生もおつしやつていらつしたやうに。

A――それはさうだが。――「依らしむべし、知らしむべからず」と云ふことばをあなたは知つてゐるでせう。あれは名言ですね。實に。

# 最近に於ける印度の獨立運動

佐々井一晁

一

四月十五日のカルカッタ電報は、インドの獨立運動が可なり尖鋭化して來たことを報じてゐる。それによると、全印國民會議長ヤワハラル・ネール氏が六ヶ月の禁錮に處せられたので、これに抗議のためカルカッタ市も、十五日から總罷市を斷行してゐる。それと共に學生および勞働者の一隊は示威運動を起し、電車線路に色々な物を持いれて運轉を妨害し、既に電車二臺を燒拂つた。警官隊は全市の要所に配置され、裝甲自動車隊出動し、形勢頓に緊張を加へて來たと。

更に第二電によれば、形勢漸次險惡となり、慓悍なるシークス居住區域に於ては、既に軍隊と群集の間に衝突起り、群集は盛に投石を行ひ、白人將校七名、土民兵十名の負傷者を出すに至つた。又電車燒打が行はれるので、消防隊が出動して消火につとめてゐるが、騒擾は鎭靜の氣配なく、市内各所に官憲との小ぜ合ひが行はれ、群集は瓦石や武器の破片を投げつけあくまで抵抗してゐる。殊にカルカッタ北部には猛烈な衝突が起り、病院にかつぎ込まれたもの十九名に達し、軍隊は遂に群集に向つて火ぶたを切つた、と。その後の電報によれば、警官隊及び軍隊の出動によつて一先づ鎭靜に歸したが、形勢尙ほ樂觀を許さないとある。

二

以上の如きインド國民の反逆的行動は、決して一時的現象ではなく、過去四五十年にわたつて繼續してゐるのであるが、其間一張一弛の狀態であつたのが、最近次第に白熱化するに至つたのであつて、その經過は、昨年の本誌十二月號に可なり詳述されてゐるとほりである。

而して本年に入つて殊にこの運動が熾烈の度を加へた理由は、歐洲大戰直後、印度の政情に察して、一九年十二月廿三日に發布せられた、印度統治法　制定に基因してゐるのであつて、約束せられたる十ヶ年の試政期が昨年末を以て經過してしまつたからである。即ち、一昨年全印國民會議に於て議決したとほり、一九二九年(昨年)十二月三十一日までにカナダ、濠洲と同様な自治

を印度に與へよ、然らざれば英國に對して徹底的非協同運動を始める、といふのであつて、本年一月十二日を以てインド獨立デーと定め、三月十二日以來、インド國民議會の指導の下に獨立運動を開始したのである。

で、獨立運動の父、「高聖」ガンヂー氏が之を率ゐて、既に月余にわたつて、インド人らしい行脚のデモンストレションを繼續し、同時に鹽專賣制度の破壞運動をやつてゐるのである。

現にボムベイ附近の海岸に於ては、五十萬のインド人が製鹽に從事して、專賣制度を破壞しつゝあるが、其處に一人の警官の影だに見えないのである。

## 三

ガンヂー氏等が、鹽專賣制　の破壞を手始めにしたとは頗る賢明な方策であつて、元來英國からインドへ輸出される貨物は、インドから英國へ輸入される貨物の十分の一にも達しないために、英國からの往航船腹を利用する爲に、この鹽專賣制度を設けて、輸入の必要なき鹽をインドへ送つたのである。即ち一九二二年から一九二六年に至る五ヶ年間平均に見れば、インドに於ける內地製鹽高は二十八億九千四百七十七萬七百六千斤であるに、英國からの輸入鹽は、九億三千八百四十九萬七千斤であつて、この九億三千萬斤の鹽を輸入せんがために鹽稅を高くかけて貧乏なインド人の膏血をしぼる一方法としてゐるのである。

だからこの鹽專賣の破壞運動にして、今後一貫の下に行はれるとすれば、英帝國產業政策の主柱ともいふべき海運業と貿易とに、致命的打擊を與ふるに至るかも知れず、從つて、本運動は極めて有力なる經濟的反逆運動に相違ないのである。

## 四

かくの如くインド國民が經濟的反逆運動を起すに至つた論據は、「英國のインド領有を利益なきものにしてしまへ、然らば英人は追はずとも退却するであらう」といふのであつて、政治的自主(スワラヂ)を實現するには經濟的自主(スワデシ)の達成によるの他に道がないといふのが公式となつてゐるのである。だからガンヂー氏が年來唱道し實行してゐる原始的紡ぎ車による粗布獎勵の如きもランカシアの紡績業に對抗する意味のものである。

次に來るべきものは、非納稅運動であらう。かくて次から次へと經濟的反逆を繼續し、やがては法律のボイコットともなり、長期にわたつてたゆまず反逆の鋭鋒をおさめないとすれば、恐らく今後十年を俟たずして、インド人のインドは完全なる獨立國家として建設されるに至るであらう！

故に今日の獨立運動はその形式たるや無抵抗式であるが、本質は立派な獨立戰爭に相違ないのである。われらは世界正義のために、敢然立ちてこの被壓迫民族の勇敢なる奮起に對し出來得る限り支援せねばならない。

# 教育費國庫負擔金増額、減俸、馘首

齋藤五郎

市町村の豫算は昭和三年度に於て、十二億五千六百萬圓、其中教育費は、三億二千四百萬圓ですから、地方費に對する教育費の割合は、二割五分といふ事になる。ところで、何とかして國庫から金を出してやつてこの重い負擔を、輕くしてやらうといふのが、國庫負擔増額問題の要點である。所が教員の俸給は、一億六千四百萬圓だから、教育費全額の約五割といふ事になる。そして現在國庫から支給してゐるのが七千五百萬圓、教員俸給の約半額である。

ところで問題は、政友會が、國庫支給額は、教員給の半額でいゝといふのに對して民政黨　その全額主義でなくちや不可ぬといふ處にある。政友會は、地租委讓によつて、地方に財源を與へればよいといふのであるが、政友會のこの金看板に對するものが即ち、民政黨の教育費の國庫負擔増額問題になるわけだ。これは兩方とも選擧のある毎に、ふりかざして來た金看板である。だから、民政黨が教育費の國庫負擔を増額するといふのも、本來は教育の振興をはかるといふ事にあるのではなく、つまり地方の財政やりくりに困つてゐる地方理事者の御機嫌をとり、結局、選擧に利するといふ腹なのである。その意味で、政友が地租委讓案を以て、地方理事者の御機嫌を取つてゐるのと好一對である。

その證據には、民政黨は教育費の國庫負擔を増額する爲に昨年あの官吏減俸案を出さうとしたのだ。そんなにしてまで國庫負擔を増額しやうと言つては見るが、一方に於て、小學校教員初任給の減額、それから大馘首、それから住宅料の削減、といふ事が、全國的に行はれてゐる。而も文部省は何らなす處なく、結局金解禁に依る所の犧牲を、弱い者の教員にせおはせて居るといふ點に於て、民政黨が資本家政黨であるといふ事を曝露するものである。

次に教員の減俸問題であるが、日本の教育界に大正六七年頃、未だかつて見ない所の教員不安時代が襲來した。それは物價暴

聽の結果である。その時敎育者の熱烈な要求によつて、敎員の俸給が七割乃至十割增加した。所が今その第二次の敎員不安時代が襲來したわけだ。それが敎員減俸問題である。

減俸問題が、どうして發生したかを見ると、昨年七月二十九日、內務省訓令第一〇〇四號を以て、昭和五年度の豫算を編制するについては、昭和四年度に比して、一割五分の削減をしろといふ事を、各地方官に訓令した。それが市町村へ移牒された。前項で言つた樣に、地方費の最高を占めてゐるのは敎育費で、その中の最高を占めてゐるのが敎員の俸給だから、さしあたりこれに削減の指が加へられるのは必然の勢である。ところが敎員の現在とつてゐる俸給に對して、これを削減するといふ事は出來ないので、師範學校を卒業した敎師の初任給を減ずるといふ方途に出た。

即ち現在敎員が受けてゐる俸給を減らすわけにはゆかないが、平均給は上下することが出來るのだから、そのために初任給は下げたのである。そして、どうかして豫算額を少くしたいといふ結果、未だ充分働きのある有能な敎員を老朽の名によつて盛に馘首さへ初めたのである。既成政黨の政治家や或はその治下に於ける官吏といふものは、六十近くなつて、段々いゝ地位を占めるといふ現代に、敎育者は、五十を越えるともうその椅子が危い、といふ樣な狀態である。敎育者に限つて老朽するといふいはれはない。若しそれがあるならば、誰がさうさせたか、といふ事を、考へ直さなければなるまい。

それからもう一つ、現在の敎員の俸給の平均額といふのは昭和三年の調査に於て敎員の平均給が六十三圓、東京は一番いゝ所で七十九圓、地方に行つては五十四圓の所もある。東京の警視廳の巡査の平均給は、五十七、八圓の間を往來してゐる。しかも敎員たるには、小學校を出て、更に師範學校に學ばなくてはならない。それ等から考へて、敎員は決して惠まれた位置にはゐない。一方に於ては讀書もし、研究もせねばならぬ。しかも責任が重い。それにもかゝはらず、その敎員の手をねぢ上げんとするのが敎員減俸問題である。

敎員は中央政府に對して非常に弱いのみならず、地方の町村長に對しても非常に弱い。敎育といふ重要な任務を託されてゐる人が、斯くの如く弱いものであつていゝだらうか。

敎員が强くなるの道は、組織を持つ事である。結束を作ることである。組合の實質を有する敎員會を組織することである。

敎員が强くなるといふ事は、それ自身の生活狀態を確保するばかりでなく、お互の子弟をよりよくしお互の住まふ社會をよりよくするといふ、理想のあることを忘れてはならぬ。

# 庶民金融難とその改善策

前田繁一

近頃中小工業者の金融難と云ふ聲が非常に喧しくなつて來た。中小商工業者や中小農家が、自分の業務の改善をしようにも、經營方法を改めようにも、先立つ資金の調達が中々困難である。さうかと思ふと又一方に於ては、財界不景氣の爲に事業界が振はず、ヤレ事業の整理だ、ソレ改善だと稱して人減らしをやる、俸給を減額する。從つて今や我國も失業者は續出するし、職を失ふの憂目を免れた者でも所謂減給だ經費節約だで收入が減る。其處へ持つて來て各學校は此の經濟界の現狀に對して一向無頓着に、年々多數の卒業生を送り出す。さなきだに職を求めて止まぬ、失業者の多い上に、大いに働かんとする求職者を、盛に多數の學校が製造するのである。然も人を求むる職業の方は極めて少い。娘一人にむこ八人所か、今や我國は娘一人むこ百人、職を求め得ん事は正に所謂千三つの困難さに在る。數多い失業者と學校出の新たな求職者とがまんじ巴に、都市は就職戰に血で血を洗ひ、しのぎを削つて惡戰苦鬪、然も百人中其の大部分は就職難に世をはかなむの外ない狀態なのである。已むを得ず彼等が進路を小賣商その他の小商工業に向けやうとすれば、開業資金の調達が又中々困難なのである。資金の枯渇に依つて忽ち行手を遮ぎられてしまふ。

斯ふ云つた事情で我國は今や中小金融無產階級の金融難が失業問題と併行し、否それ以上に喧しくなつて來たのである。

中小商工業金融が如何に困難であるかは、銀行の貸出を見ただけでもほゞそれと察する事が出來る。即ち全國普通銀行

の貸出状況を見ると、昭和二年末には預金に比して貸出しの方が七億八千萬圓も多かつたものが、昨年末に於ては逆に預金に比して貸出が十九億圓も少くなつて居るのである。のみならず昭和二年末の貸出しは八十九億六百萬圓であつたものが、最近では七十二億三千萬圓になり、僅か二ヶ年間に全國普通銀行の貸出額が十七億圓近くも減つて居るのである。

　中小商工農業者に比較的に親切であつた中小銀行の貸出しに至つては、資金の大銀行集注と銀行の合同減少と相俟つて、益々其の貸出を減じて行くと云ふ有様なのであるから、銀行に依つて、生業資金なり生計資金を得んとする中小商工農業者、又は俸給生活者の資金調達が困難になつた事は大體之れに依つて察し得るのである。

　更に又我々が將來に起るべき萬一の災厄を慮つて加入した生命保險の證書を擔保として保險會社から借り出した金を見ても、昨年末は一億一千萬圓に達して前年より一千萬圓、昭和元年に比して六千萬圓も增加して居るのである。そればかりか契約した保險料さへ支拂へなくなり、解約するものが非常に多くなつて來たのである。

　又之れは質屋から聞いた事であるが、最近質屋へ新らしい反物そのまゝを持ち込むものが非常に多くなつたと云ふ。どうしたのかと調べて見ると、自分は初めから着るために反物を買ふのではない。暮しの金にさへ困る。小供の學校の月謝にも差支へる。僅に十圓の金すら中々貸してくれるものがない。仕方がないから月賦で反物を買つて來る。反物代は五ヶ月か一年に拂へば良いのである。さうして買つて來た反物を持つて質屋へかけつける。さうして五圓なり十圓の金を借りて來る。斯ふ云ふ連中が最近殖へて來たんだと云ふのである。

　以上申上げた事は單に一例に過ぎない。けれ共之れを見、之れを聞いただけでも、如何に中小商工業者や農家が資金を調達するのに困つて居るか、如何に俸給生活者が資金調達難に苦るしみ抜いて居るかゞ判るだらうと思ふ。

　こゝに於てか大藏省は、此の庶民階級の金融難を緩和し、救濟する必要があると云ふので、今回預金部資金二千萬圓を、全國の信用組合を通じて融通する事になつた。遞信省に於ても簡易保險の積立金を中小商工業に貸出すべく、目下着々と調査中だと云ひます。一方民間に於ても勸業銀行が小商工業の生産資金及び舊債借換資金の貸出を擴張する事になつたし日本晝夜銀行は本年一月からサラリーマン金融を始め、四月

から更に中小商工業金融を開始し、昭和銀行、三井銀行其の他に於ても庶民金融を開始すべく着々研究し、準備中であるのを始め、今や中小無産金融は一種の流行となつて來たのである。然らば一體此の中小金融難と云ふものは急に起た事であろうかと云ふと決してさうではない。

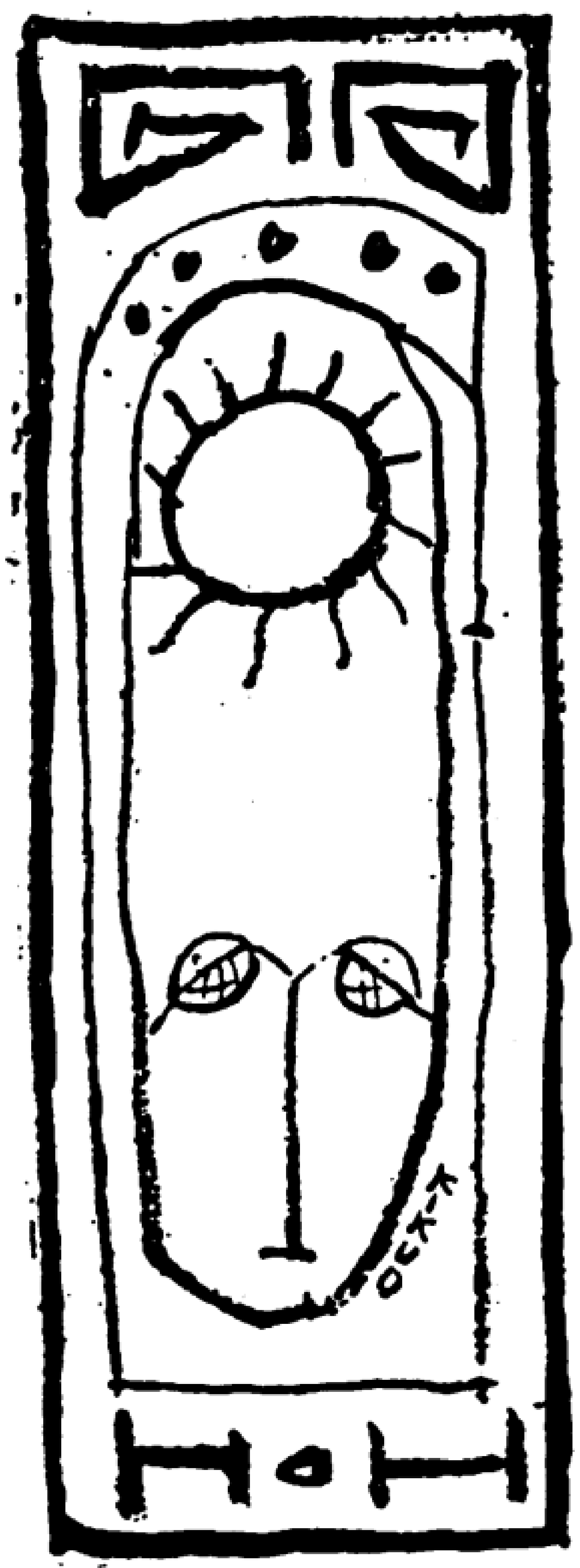
我が國の經濟組織が年の經過と共に中小商工業者の資金を枯渇せしめたのである。即ち銀行は預金を八十九億圓も有しながら、その中貸出しが七十二億圓で、十七億圓は有價證券その他に投資して居るのであり、信託會社は中小商工業者から預るだけは預るが、擔保信用の薄弱な中小商工業者に決して融通しないし、郵便貯金は二十一億あり、最近一ヶ年に二億圓も殖へたが、貸付は所謂低利資金として、農林、内務兩省を二つ併せても、年々四五千萬圓位のものである。又其の數一萬二千を算する信用組合は、組織から見ても、その目的から云つても、お互擔保信用の薄弱な者同志扶け合ふといふのでなくてはならない。ところが事實はどうであらうか。大藏省が金融難救濟の爲、預金部の資金即ち郵便貯金二千萬圓を信用組合の手を經て融通しやうと言つたのに對し、眞先に反對したのは産業組合中央金庫の理事者達であつた。何故反對したか、「我々は自分の資金をさへ融通し切れないで困つてゐる。この上資金を持ち込まれては甚だ迷惑だ。」といふのである。どう云ふ譯かと云ふと、産業組合中央金庫の資金は約一億圓あるが、その中貸出は四千八百萬圓に過ぎない。あとの三千三百萬圓は手許に置き、千九百萬圓は有價證券に投じてゐるのである。信用組合聯合會にしても、資金一億八千七百萬圓の中、融通して居るのが六千七百萬圓、銀行預金として寢しておくものが七千萬圓、有價證券が五千五百萬圓といふ狀態に在る。全國一萬二千の信用組合を通じて見ても、運轉し得る資金十四億圓の中、貸出は九億圓に過ぎないで、五億圓は銀行預金になつてしまつてゐる。橫濱の工信組合や、愛知縣及び長野縣の上田や、東京の本所にある二三の組合を除いては、大抵今言つた樣に多くの資金を寢かして置くと云ふのが多くの信用組合の現狀である。斯くの如き狀態であるから、我國は年の經過と共に庶民階級は益々資金が枯渇し、資金難に陥らざるを得ないのである。斯くの如く經濟組織自體に缺陥がある上に、缺陥多き經濟組織の運用宜しきを得ない爲に、益々其の缺陥を助長擴大して、遂には今日の如き庶民金融難を惹き起すに至つたのである。さうして庶民階級

は前述したやうに資金調達に困り拔いて居り、庶民階級相互の金融を圓滿にし救濟する爲に組織された信用組合、同聯合會及び中央金融機關たる中央金庫等は資金がダブつき、遊資處分難に困り拔いて居るのである。さうしてお互いの資金難を緩和せんとする預金部資金の融通をお斷はりをし、反對しなければならないと云ふ狀態なのである。庶民階級は自分達が食ふ爲にたいた飯を目の前に澤山持つて居ながら、之れを食ふ事が出來ない。腹が空いて、腹が空いてたまらない。青い顏をし、ヒョロ／＼した姿を見かねて他人が飯を與へようとするが、目の前の飯さへ食ふ事が出來ないんだから、食つちやいけないんだからと云つてそれを自分の手が斷はると云ふのが昨今の庶民階級なのである。自分の手足でありながら自分の思ふ通りにならない。こんな事では庶民階級は遂に餓死するの外はないのである。庶民階級は先づ中風病を直さねばならぬ。自己の手足は自己の意のまゝに働くやうにせねばならぬ。

現在庶民階級は全く中風やみの狀態なのである。腹がへつてたまらないのに、自分の手は自分の口に飯を運び得ないのである。然しながら、中風にかゝり、腹がへつてへつて堪へられないくせに、非常に不養生なのである。益々中風が重るやうな事ばかりして居るのである。即ち現在全國に一萬二千もの信用組合があり、一市町村に一つ以上の信用組合を取つて居り、其の信用組合が自分達の手元に餘裕のある時には之れを貯金し、其の貯金の增加し、多い事に依つて社會の信用も得て借入金をし、貯金や此の借入金等に依つてお互ひが必要な時に融通し合ふと云ふのが其の設立の目的であるのに拘らず、その組合員が此の設立の趣旨目的、組合の性質を忘れて、自己の手を離れて行く郵便貯金や銀行預金をする事を知つても、組合に貯金する事を知らない連中すら少くないのである。こんな事で信用組合の資金が殖へる筈がない。其の上に組合の理事者が又組合を理解せず、組合員に使はれて居る事を忘れて自分勝手な振舞をやるのである。之れでは益々庶民階級は資金難の度を加へるの外ないのである。

現在の庶民階級の金融難を救ふのには、先づ何よりも庶民階級が自覺せねばならぬ。さうして信用組合と云ふものを十分に理解せねばならぬ。十分に理解して手元に餘裕があれば必ず自分の懷中、即ち自分の組合に預けて他へやらぬと云ふやうにせねばならぬ。理事者には必ず組合の精神を理解した

ものを選んで當らせなければならぬ。何しろ庶民階級は擔保信用が薄弱なのである。現在の資本主義經濟社會に於ては甚だ惠まれない地位に在るのである。他力本願では到底救はれない。お互ひが自覺し、お互ひが助け合ひ、お互ひが團結する事に依つて、自力本願主義で救はねばならぬのである。それには信用組合の如き最も良い機關なのであり、最も良い武器なのである。お互ひは金融難を叫ぶ前に先づ自分の手元の餘裕は一錢一厘たりとも遠くへやらぬやうにせねばならぬ。資金調達難をかこつ前に自分達の組織して居る信用組合の現狀を十分に見ねばならぬ。さうして改善すべき點あらばこれを改善せねばならぬ。さうして信用組合を十分に利用し活用せねばならぬ。斯くすればやがてお互いの金融難は餘程緩和されるだらう事を信じて疑はないのである。



## 職業婦人社人事部に就て

主任　青柳桃枝

此度、わたくしどもの申し合せで、職業婦人社に、人事部を置きました。

從來、人事事項は頻にたえぬまで奥氏の手に取り扱はれたもので、今更、新しく設けたわけではありませんが、これからは、もつと陣營を整へて、誰方にも利用されるものでありたいし、又、ゆく〳〵は、職業婦人社の成長を補けるものでありたいと、其の結果も、大いに、職業婦人の爲に期するところがあると確信してゐるのであります。

私共の人事部の特徴は、職を求める人と人を求める人双方から幾分の據金をして頂いて、それを人事部基金として積み立て、相互救援の實を揚げてゆきたいと希ふ點であります。

人事部の會計その他に關する責任は主任が一切を負ひます。

◇

（暫定内規よりの抜萃）

一、職を求められる方

申込金として金五十錢也

（この金子は人事部の積立金になります）

職をえられた時は最初の收入の一割也（分納でもよろしい）

（この金子は事業部の經常費になります）

一、人を求められる方

適當な人材を御紹介したるとき金壹圓也

（この金子は事業部の經常費になります）

雇入れのために要したる旅費を負擔して頂きます



# 性と、社會と、女と

岡田敏子

結婚とか、戀愛とかいふことは、人間に青春の血がたぎつてゐる限り永久に新しく、日に日に新らたなるあこがれである。然し、誰か、永遠に新しい戀愛を獲得し、日に新らたなる結婚の王冠に嘉せられたであらうか？

フランスでは女子が、男子よりも七十萬も多いと聞く。從つて結婚したいと希ふ女子は、深刻な結婚難を押し切つて、對手の男をかち得なければならぬのであるから、こゝに大きな惱みがある。無産階級はとにかくとして、普通の結婚では女子が持參金をもたないことには、男子から振向いても貰へない。それも莫大な持參金である。その利子だけが夫の收入に相當するほど、などゝ云つて出られたのではフランス女子の惱みこそで、ある。

アメリカでは「少年及び家庭審判所」の名判事ビー・ビー・リンゼーの提案にまつまでもなく、すでに友愛結婚が事實上若き時代の覇をなしてゐる。

リンゼイは云ふ。

「友愛結婚とは、法律に依つて承認された産兒制限をふくみ、また、子供のない夫婦は相互の承諾に依つて離婚しうるといふ權利をふくみ、そして、さういふ離婚の場合、手切金を支拂はぬ約束の結婚である」と。また別の項に、

「健康や、經濟や、氣質などのためから結婚してすぐ子供を生んでも扶養し得ない事情にある男女が、戀愛と友情と協力とを目的として行ふ結婚がそれである」と。

今日の文明と生理學の發達は、結婚關係をたしかに一變した。すでに避姙結婚も、産兒結婚と同樣の立場で今日嚴然と行はれてゐる社會制度の一部分である。避姙法への信頼は、全く、昨日の怯懦なり若者たちを、勇敢なる飛躍へ、と誘

ひ高めた。

産兒制限はすでに行はれてゐる現實である。それを行ふ人を罪惡視したり、卑しめたりする人は、すでに一人もゐないのであるが、この新しい實行を、公然と承認しやうとすることを未だ社會が拒んでゐるだけである。

今から廿五年前、ドイツに於ける婦人運動者會議に於て、

「現行法はすみやかに改正せらるべし。墮胎は姙婦の意志に反して他人が强いてこれを行はしめた時にのみ罰することにすべきである」と決議した。

この提案の説明をやつたツアンツインガー女史の述べたところは次のやうであつた。

「一人の女は、彼女自身の肉體と健康の合法的持主である。彼女がそれを吾が心で決めた男に自分の處女を捧げるのは、彼女一個人の權利であり、且つ、彼女一身の重大問題である。ちやうどそれと同じ樣に、理由よろしきを得たものが完備してゐると彼女自身が信ずるとき、彼女の内に宿つてゐるいのちを、外に出して完全な個にするか、しないか、をきめるのは全然彼女一人の權限に屬するものである」と。

われ〱はたゞ、産兒制限についての正しい科學を國民に教育し、同時に、子供を生むことがもはや重荷でなくなる樣に經濟生活を變化させるやうにつとめたいと希ふばかりである。

然し、現代は、それが「斯くありたい」ものだとわれ〱には希れるだけのゾルレンの世界で、事實は、恐しきまでに廢頽と爛熟、暗黑と陰慘と罪惡が、酒と光と女とジヤズの交響樂中に、夜となり、朝が來つゝあるのである。

若い娘たちは、食後にシガーをくゆらし、晩には戀人と散歩をして生活に色彩を添へるやうな、彼等自身の無頓着な、自立的な生活の權利を主張し出した。……彼女は月末に自分の給料をうけとり、その戀人からは戀愛と僚友關係以外何の報酬を求めないのである。

然しそれでよいのか？

今日の生活がいかに生きるに難い世であるからといふて、現實の鬪ひを逃げて亂舞と情痴におのれを忘れるものは、新しい時代をいかにして持ち來たすべきかについての、重要な考察を怠るものである。今日の生活に打ちひしがれて、未來につなぐ希望を見失ひたる卑怯ものに嘲りあれ。

若人よ。新しい、明日への飛躍へ！

# 靜境を出でゝ

西野いく

「それに食付いてさへ居れば、不足なく食つて行けるのに、何故止める？」三月限り敎員を止めることに決めた私は、無學な私の肉身からだけではなく、相當敎養のある人々からも繰返し同じ質問を受けた。この人達に私の氣持を理解して貰ふことは、私自身にとつて非常に必要だつた。人一倍臆病で決斷力に乏しい私は、自分のこれから歩かうとする道を、多くの人に合點の行かない程、複雜なものだと見るのが恐ろしかつたのである。しかし私はその質問に對して、滿足を與へる樣な答へをとう〳〵することが出來なかつた。

耳に蛸の出來さうな、就職難の叫びが全く聞えない者のやうに「敎員なんて嫌、ウツカリ身動きも出來ないんだもの」一口に縮めたら、結局さういふ事にでもなつてしまひさうな私の答へ振りで、私にとつては甚だ心外な我儘者の名稱を、自ら求めた形になつたかも知れない。さう思つて私は今苦笑してゐる。とにかく私は六ケ年の敎員生活から、完全に足を洗つた。「願ニ依リ退職ヲ命ス」先輩の手を經て、この辭令が私の手許に屆いた時分には、一人の若い活氣に滿ちた女性が、かつて私の占めてゐた椅子に凭つて、職務の上にその才氣を傾けつゝあつた筈である。世には就職難の叫びが高い。

「今更何を泣くのか？」自分自身に對してさうした問を發する事さへ忘れて、私は涙が頰を傳ふに任せながら、父の前にうなだれてゐた。出發の時刻は迫つてゐた。老と病にすつかり肉を奪はれた樣な父の膝が、前をはだけた着物の陰で、はげしく顫へてゐた。私に告別の辭を述べながら、彼は度々咽

び上げさうになつた。まるで私が死んで行くのでもあるかの樣に私の肉身達のすべては泣いた。師範學校に學んだ間を除いたら、數へる程しかしなかつた旅行の外に、家を離れた事のない私だつた。汽車に弱い私は食事をどうしても家ですましておく必要があつたのだけれど、母の作つてくれた大好物のすしが、一つきりしか喉を通らなかつた。立ち茶の用意も出來てゐたのだけれど、私はそれさへ呑まずに、挨拶もそこそこ家を飛び出した。私の行を壯にして下すつた多くの人々に好意を謝しながら、私は故郷に別れを告げた。もう私の涙は乾いてゐた。

　かうして私は上京し、乘り慣れない汽車でへト／＼に疲れた體を、職業婦人社の事務所に投じ、以來引き續き御厄介になつてゐる。「不足なく食つて行けるのに何故止める？」さういふ問を私に發した人達に、私が何よりも先づ言はねばならない事は、止めた事を後悔する氣持が、私にはみぢんもないといふ事である。

　正直な所、私は時々泣けさうになる。そんな時には私の目の前に、顫へてゐる父の膝頭が、チラついてゐるのである。そして私はこんな事を考へる。マキシム・ゴリキーが、その作によつて母に言はせてゐる言葉を、父が一言だけ聞かせてくれたら、と。「心配する事はない。行かせなさい」それだけで私の心は、農村の虐げられた姿を凝視し、何が彼等をしてかくあらしめるかを、專心探究することが出來るのだがと。

　しかし私は、間もなく微かな笑ひを取り戾すことが出來る。店にある玩具を皆自分のものにしやうとする樣な、駄々子じみた自分に氣付くからである。

　賤しい百姓から身を起して、大實業家になる事を出世と言ひ、それの出來る人を偉人とか、英雄とかいふ名前で呼ぶ事によつて、百姓を暗に賤しむ樣に教へるのが、現在の教育方針であり、最も感受性に富んだ時代の前後十三年を、その方針の下に教育された私は、隨分肩見を狹く感じながら、二十分かゝる學校への道をいつもうつむき勝ちに步いてゐた。

　「今日は一つ手傳はうか」重い籾すり臼を廻すのに、その時丁度兄がゐなくて年とつた母と、小柄な弟と、尋常科を卒へたばかりの妹と、三人で骨折つてゐるのを見かねて、私がかう言つたのは、師範を卒業してから四年を經た後だつた。起

居を共にしながら、氣持の上では肉身を全く離れて生活しなければならない私だつた。「どうぞいゝ先生になりたい」その爲になら私はどんな努力も惜しまない積りでゐた。しかしながら所謂「いゝ先生」といふものゝ正體をつかんだ時、私はすつかり張り合ひ抜けがしてしまひ、仕事に對する興味が薄れてしまつた。

今までなるべく遠ざからうとばかりしてゐた肉身に對して言ひ樣のない懐しみを覺えはじめたのは、その後だつた。しかしその籾すりを手傳つて、私は今更ながら自分の弱い體力に驚き呆れた。胸は激しく鼓動を打ち、汗は瀧の樣に流れ、十分の後には死ぬ程苦しくなつて、思はず手を離してしまつた。六十を越した母が平氣でつかまつてゐるのに。

體力の相違、思想の相違、その間に堀られた溝を、飛び越えて、私は何とかして彼等に近づきたかつた。その爲に私は隨分色々な事を忍んだ。そして失望した。駄目だつたのだ。「一體これは必要な溝なのか？　それを飛び越える不自由を忍んでまで、保存しなくてはならないのか？」

そして私はその溝は今にも埋めてしまはなくてはならない性質のものであり、その爲には極く僅かの捨て石が必要である事を知つた。何を躊躇することがあらう。「お前のその椅子を明けてやるがいゝ」就職難の叫びは高い。

臆病な私は、自分自身でさへ驚いた程の、決然たる態度で立ち上り、そして言つた「さやうなら」大勢の肉身に、小數の友に、そして故郷に。

歩き慣れない堅い歩道と、まばゆい色彩とに、疲れ切つてしまふ時、耳には聞えない聲が私を呼ぶ「しつかりおやり、お前の使命を忘れてはいけないよ」それは私を勇氣づける。

私は今助産女學校の生徒である。産婆になるのだ。

「私が實は不孝者でなかつたといふ事を、證據だてる日の來るまで、父よ、あなたの涙を見なければならなかつた苦痛を、私は一人で忍ぶ事にしよう」私が今肉身に對して言ひたい言葉はたゞそれだけだ。

たゞ次兄――自分の少い收入を割いて私の學資にあてゝくれた所の――に對しては次の一言をつけ加へやう。「兄上よ。私は自分で正しいと認めた事だけを實行する事に努めよう。あなたに對する私の感謝は、さうする以外にはないから」と。

## 二

# 兒童と讀み物

（新しい見解に基く再批判を望む）

新居格

アナトール・フランスは次ぎのやうに云つたことを記憶してゐます。

「いくら大人に軍國主義のいけないことを說いても、日曜日の公園を軍服を着せサーベルやナポレオンの繪草紙を玩具に買つて與へる習慣が殘つてゐる限り、平和主義の實現はむつかしい」と。これは面白い見方だと思ひます。わたしも屢々しい綠の原つ場でシャベルをもつて農耕ごつこ（兵隊ごつこの代りに）をしてゐるやうな挿繪のある子供の雜誌をよろこびたいのです。フランスの云つた言葉を思ひ出すやうなことにたくさんぶつかります。子供のための雜誌も十分改める餘地があると思ひます。

それから子供のための雜誌にかゝれてある繪は大抵の場合、非常に生活のかゝ狀態の子供の生活が描かれ過ぎてゐると思ひます。雜誌に描かれてある繪のやうな生活を實際にしてゐるものは少數です。假りに一つの部室が描かれてゐるとしませうか、ピアノ、白い鸚鵡の居る綺麗な鳥籠、油畫、

---

# 愚人のことば

小泉せい

財政整理、緊縮を以つて、失業者を出し、而して今日に及び失業者救濟策とかに、政府は、心を痛めるよし。藝仕込みにあづかる仔犬の如き失業者、たとへば、撲つて痛い目に會せた後で、パンの一片も與へると云ふ筆法か？

○

復興祭！　七年の忍苦こゝに報ひられて、呑めや歌へと御許しが出る。一升に就き、酒の稅四十錢也を吸ひとられて市民どもは宇頂天になる。呑んでも、喰つても結局は市民の頭に科稅されるのだ。それでも、七年前死んだ佛が成佛出來ると思ふ人は、うんとお呑みになるがいゝんだ。

花の咲いた植木鉢、窓には美しい窓掛と云つた風に大抵の場合何一つ不足のない富裕の家庭です。さした繪雜誌を子供に見せるのはよくないことです。

一口にざつくばらんに云へば、プルジョア生活が描かれ過ぎてゐるとが前に云つた軍人讃美、(無意識でせうが)と共に、子供たちによき影響を與へないと思ひます。以上は幼年幼女雜誌のことですが、少年少女雜誌は繪とともに記事で行つてゐます。

將來の社會を形造してゆく子供達、その子供たちに、學校敎育以上に影響を與へるところの幼年幼女雜誌、それから少年少女雜誌を一般人、わけても兒童の世紀に關心をもたなければならない大抵の人々が、押並べて無關心であるらしく受取れるのは遺憾に感じます。さうした雜誌にこそすぐれた人々が十分の注意をもつてこさへらるべきではないでせうか。それこそ淸新な、從來の往き方とかなりちがつた雜誌ができやしないかと思ふのです。勞働の尊貴を感得させ、科學的知識を自づと注入させ、そして面白くもあるところの淸新な雜誌が成立ちうると考へられます。朗かな氣持でよみ、また見られて、しかも有益な雜誌、さうしたものの出現をわたくしけ子供たちのためにどんなに望みたいか分かりません。

昆虫の世界も、魚や鳥の生活も面白けれ

---

○

慘劇又慘劇、不景氣が家庭悲劇を生む肌ざむい昨今、某博士の新聞紙に云はるるには——見のがせない經濟的行きつまりだ——と。學者はやはり學者らしく、數字と文字で世の中をはかりわける。骨相屋が運命判斷を筮竹で觀るが如し。

だが世の中には、多額の補助金を政府から捲き上げ——穩當でない云ひまわしだが——、上には上あるが如く、政府から金を引き出すに妙を得た手輩どもが、慈善事業何十年の歷史を持つてゐる所謂社會事業家、——その人事相談所、救濟所など、愛國の名にかくれて己れの名利をはかるに又妙を得た職業紹介所及其他の社會事業所が、も少し、その何十年を誇るに足る進歩をし、看板の大仰な如く實質に於ても大いに窮乏者の力となるものであつてくれ。電車賃の使へる程度の失業者、文明機關の利用法を心得てゐるものだけにとゞまらず、言葉をつくせば——微に入り細に渡り——こゝらをうまく動かして、もつと、私どもに親しい、近い人事相談所が、各所隨所にほしいものだ。

○

消費經濟とは？　？　？

物分りのいゝ人には、ちやんと分るだらう。一錢でも安いものを！　仲買人を一人でも少くする！　生産者より直接消費者の手へ！　無駄を作らないこと！　等々、其の他、專門家の云ふ如し。

ところが、案外忘れやすくて、實行しようとすれば面倒臭いのが——「時間の

ば、星や、雪や、雨、もろ〳〵の機械の作用、子供のために面白く敎へていゝものは多い、何も戰爭、軍人、ブルジョアの生活と云つたものを相も變らずに多く取入れなくてもいゝと思へる。子供が活動寫眞の劍戟ものをすきつたらありはしない。それがよき影響を少年たちに與へないのは云ふまでもありませんが、幼年、少年雜誌だつてほゞそれと同じやうな影響を與へると云つた點がないであらうか。

　わたしは、これは持論ですが、子供に「えらくなれ、〳〵」と云つた風の考方を與へるものはことごとくよくないと思つてゐるのです。この「えらくなれ」とせんどうするやうな敎育法でも、その意を體したやうな雜誌類が排斥される樣にならなければ、いゝよみものは生まれさうにもないのです。性質のいゝ、自然にのびて行く少年少女、それが雜誌のよき對象にならなければならない。才分は煽動によつて生まれるものではありません。そして人としての良質がすぐれてゐるので、才分の多量が高き特殊價値を置かるべきではないことをハツキリとさせたいものです。それにこれまで才分と云へば單に學問がよく出來る、頭のよさに限られて評價した形があつたのは大へんな間違ひだと思ひます。子供に何をさせたらいゝか。それの選び方には一つの高き見



消費經濟」だ。これは、物質より少し頭が要る。家庭の中で、路上で、へいりの如く捨てられ、踏みにじられるのを見る——感じる。

時間を尊重するのは、アメリカの專有道德ぢやない。一九三〇年以後の必ず、一考をなす、我々の消費經濟中の重層をなすものでなくてはならない。

○

不景氣だからとて、一文の診察料を下げない病院に、若い娘さんを世話することになつて、たま〳〵話しが俸給に及ぶと「この不景氣に、從來通りには出せません」と云ふのだ。止れ！　彼の病院は、不景氣からとて、一錢の藥價を遠慮したわけでない。凡べては、從來通りである。不景氣と云ふ奴は、搾取側に取りては好き護身武器であり、被搾取側にとりては無氣味、銳利な刄物となつて、日に日に、刻々、身邊に迫つてくる。不景氣に乘じてものしようとする奴等は、不景氣に數倍の輪をかけて、無智で善良な市民どもをおびやかすのだ。

○

「南洋の話をきかせろ」

私が少し元氣で、餘暇のある顏をしてゐると、誰やらが必ずせがむとになつてゐる。そこで、私は「南洋は、苦を樂にとりかへる世界だらう」と答へておく。さう、こう不景氣で氣分の重苦しい時は、こんな話しは淸涼劑だ。

その朝、土人女アサコが、檳榔子を持つて來て私に、「喰べてみろ」と、半ば强制

識がいると思ひます。そしてそれはまことに重大な問題です。

　子供について人々が餘り樂觀主義と申しませうか、あまい、考方でありすぎたのを實は感心しないのです。それは子供は天國にゐる天使のやうなものだ、無邪氣にして愛すべきものだ、驚異感を多量にもつた藝術家だと云つて、兒童の世界を買ひ被る考方がさうだと思ひます。さうした一面もあるにはあるでせうがそれを高く買ひ過ぎ、それを誇張し過ぎる大人たちが多いのではないでせうか。わたしはその點からすれば、實はその天使たちから憎まれていゝ考方をもつ一人で、なあに、何で子供が天使のやうなものか、あいつらは胎芽のうちに大人同樣の惡い所をもつてゐる。ただ胎芽であるだけにそれが憎めないだけの話で、無邪氣のうちに邪氣をもち、その他さま〴〵の惡德、少くともそれの種子をもつてゐる彼等であることの方をより多く考へたがる一人です。子供は無邪氣だとかと云はないで子供にたいする科學——冷嚴な科學——がもつと彼等の正體——胎芽期にゐる彼等のもつ諸々の缺點——を明白に曝露させねばならないと思ふのです。子供にたいするセンチメンタルな考方が除かれて來ることによつてのみ、子供のために何がよむべく望まれていゝかの讀物が實際にハツキリすると思ふのです。

的に喰べさせた。好奇心半分、その苦い、得體の知れぬ果汁を嚙みしめてゐると見る〳〵口の内が眞赤くなる。私は吐血でもする樣に、ペツ〳〵その赤い唾液を吐くと、アサコが、急に大聲立てゝ、妙に笑ひ出した。

「なぜ、其麽變な笑ひ方をするの？」馬鹿にされた樣で、いまいましく私は云つた。

「でも、始めて日本人が私等の島に來た時、土人が檳榔子を喰べて口が赤いので人喰ひだと怖れて、兵隊さんは道を歩く時、鐵砲を持つてゐたのだ、だから此度は、アメリカ人が來て、今のあんたの樣な日本人を見ると——俺たちよりも色が黒くて口が赤いから人喰ひだ——と打つだらうか」そこで自分の顔を鏡に見ると成る程、食人種の樣に、平常の私の形相でなかつた。

○

　筮竹なしに、私は、素手空手で人を判じる。參考書などは勿論、一片の知識もなく、神靈にたづさわるなんて特性もなく、たゞ、詩人の感興を以つてするのみ…。これも亦、不景氣どきの人心を慰めるものだ。

——先づ、目の大き過ぎる人は、他人に警戒の念を抱かしめ、——小さい人は腹黒さを感じせしめ、相手を用心させる。

——鼻の高いのは智識的、低いのは意志的若しくは性慾的（但し、其の肉の厚みで又ちがつてくる。）

——鼻の穴の大きい人は、磊落で、人好きよく親める。仲良しになつても損はしない。——小さい人は、その陰謀と貪慾あくことなし。

# 新語メモ

## 階級的單一政黨

無產階級の立場から、勞働者、農民、小市民を打つて一丸とした政黨といふ意味であります。我國では大正十二年頃無產政黨の組織運動が起つた頃には、かゝる階級的單一政黨の主張が盛んでありましたが、今では多數の無產政黨が分立して、この主張は下火となつてしまひました。

## 共同戰線

無產運動において元來使用された言葉ですが、今では可成り一般化してをりまして、之の意味は選擧とかその他の一定の運動又は鬪爭をやる場合に、別個の黨派に屬する者が共同のために一致の行動をとることであります。共同戰線を張るとか、戰線を統一するとかいふ風に使はれます。

## 合法政黨

現行の取締法規（治安維持法、治安警察法、出版法等）の制限を越えない範圍に於て、無產階級の立場から社會運動及び政治運動をやらうといふ主義が合法主義であつて、かゝる主義のもとに組織された無產政黨を合法政黨と呼びます。

## 曝露戰術

或る團體と他の團體とが鬪爭する場合に相手方の內部の不正や弱點を露き立てゝ、さういふものに信賴せぬやうにさせる戰術であります。たとへば無產團體の幹部に裏切行爲があつた場合などに、大會のごとき公開の席上で、計劃的に質問し、裏切の事實を曝露して、幹部を排斥したり、或は既成政黨のブルヂヨア的欺瞞政策の內容を解剖して、そのカラクリを大衆の前に曝露することもあります。

## デモンストレーション

日本流に略してデモといひます。日本語でいふ示威運動のことでありまして、即ち民衆とか勞働者が威力を示すために集團運動をすることであります。統一ある集團運動であります。

## スローガン

スローガンといふ英語は邦譯すれば、標語とか合言葉とかいふ語であります。政黨や團體の目標とか行動を極く簡單で分り易い言葉で大衆に呼び掛ける文句であります。『永生きせんとする者は大衆黨へ』などといふやうなものであります。

## 鬪ひ取る

社會運動の方面で多く使はれる言葉であります。即ち無產者運動において、或る權利や利益をば支配階級から與へられるのを待つ態度ではなく、自ら積極的に鬪爭して得る事をいふのであります。たとへば、政治的自由を鬪ひ取れといふが如きであります。

## アヂテーション

アヂテーションといふ英語は、攪亂とか煽動とかいふ意味を持つてをります。大衆運動において、大衆を鼓舞煽動して、騷動を起すことでありまして、かゝる煽動者、騷動發頭人をアヂテーターと呼びます。近頃ではアヂテーションを日本流に略してアヂといひ「アヂる」とか「アヂをかける」と

かいふ風に使つてをります。

## ダラ幹

勞働組合や無産政黨の方面でよく使はれる言葉でありまして、墮落幹部の略稱であります。無産者運動の幹部でありながら、自己の階級的立場を踏み外して、資本家側と妥協する者に對する惡口であります。なほ勞働ブローカー、即ち勞働運動を喰ひ物にして私腹を肥す運動者をもダラ幹と呼ぶことがあります。

## 反動主義

社會の進歩に逆行し、殊に無産階級運動の進展を阻むやうな一切の思想を反動主義といひます。反動主義は保守主義と似てはゐますが、保守主義の方は自已の傳統や習慣などを墨守するを主眼として、進んでその反對思想(卽ち進歩主義)を打倒しようとするまでの積極性はありませんが、反動主義は積極的に進歩思想を妨害しようとするものであります。

## 産業の合理化

資本家は利益の増大をはかるために、機械の改良とか、能率増進とか、科學的な工場管理を行ふ事をいひます。産業の合理化を實行すれば、當然勞働者は澤山要らなくなり、賃銀のやすい不熟練工で間に合ふ事になるので、失業者がふえるばかりでなく勞働の强度化によつて勞働者はますます搾取される結果になるのです。

## 産業豫備軍

機械の發達や工場管理法等の完成等の條件は、勞働者の過剩を來します。その上倘小ブルヂヨアの勞働階級への沒落、農村で生活の出來ない農民が職を求めて都會に集中するので勞働者の生活費が生産に比して多くなるのです。この手をつかねて資本家の傭入れを待つ勞働者失業者の群を、産業豫備軍と云ひます。何故豫備軍といふかといふと、生産が急激に擴大される時とか、新規な事業が起される場合に傭はれる所の豫備勞働者だからで、この豫備軍は勞働者間の競爭を烈しくするので、一般賃銀の低下を來す作用もするのです。

## 臨時議會

我國の議會は憲法第四十一條によつて、毎年一回常則として、十二月下旬東京に召集されることになつてをりまして、これを通常議會と申します。ところがこの通常議會外に、臨時議會と特別議會といふのがあります。

臨時議會といふのは、憲法第四十三條によつて、臨時緊急の必要ある時に召集せられるものでありまして、我が議會史において今日まで五十七回議會が開かれた內、臨時議會は八回召集せられてをります。

最近の臨時議會は、昭和二年五月に金融大恐慌の後始末のために開かれたものと、今開會中の第五十八議會であります。

## イデオロギー

イデオロギーとは觀念又は觀念形態と邦譯されますが、英語そのまゝの方がよく使はれます。これは社會心理とよく似たものでありまして、社會、階級、集團、職業等に伴つて生ずる感情思想の統一され體系化されたものであります。社會心理の方はイデオロギーほどに組織化されない漠然たる感情、思想又は氣分を指すのであります。かくてブルヂヨア(有産階級)にはブルヂヨア・イデオロギーがあり、プロレタリア(無産者階級)にはプロレタリア・イデオロギーがあるとされます。



# まきちやんの悲しみ（童話）

竹内てるよ

とほい〳〵大空のはてから、誰につれられてくるのか、遠足のやうな春がだん〳〵近づいて來るのでした。枯れ切つた木の枝には、小さな新芽がふくらみ、小川は音たてゝうれしそうに流れはじめます。その頃になるとまきちやんは何故か具合がわるいのでした。そして岡を越した病院に、山田につれられて通はなければならないのです。山田はお父さんの會社の、年老つた小使さんでした。

その日も、山田はじきに來ましたが、何だか泣いたような目をしてゐました。人通りの少ない路へゆくと、山田はしみ〴〵とまきちやんの顔をのぞいて、

「おじよつちやん、毎日よつてやつてますけど、婆あももう今度はだめでごぜえます」

と云ひました。

「まあ、なぜなの？　山田、だめつてどんなこと？」

とまきちやんがきくと、

「ゆんぺから、もう何にも食べましねえでの」
と山田はちゆんと鼻をすゝりました。
まきちやんは、何だかかなしくなりました。
「ね、早く、行つてみませうよ」
二人は、春にしては少しさむい風の中を、一生けんめいに病院へまゐりました。
先生はいつもの様ににこ〱してまきちやんを診て下さいました。そしてまきちやんの頭をなでながら、
「外で遊んではいけませんよ。外で遊ぶと、いつまでも、おせきがなほりませんからね」
と仰やいました。まきちやんは丁ねいにおじぎをして、大急ぎで山田の手を引ぱつて外へ出ました。
「いそいで行きませうよ、お婆さん、けふはおかゆたべるかもしれないでしよ」
と申しました。
山田の家は、病院の土手の下に、たくさんならんでゐる小さい家のはづれでした。たつた二人ぐらしの毎日を、山田が會社へ出てゐますから、後は病氣でねたつきりのお婆さんが一人、わづかに虫の息をつないでゐるのでした。まきちやんを病院につれてくるといふこの一つの御用がないならば、山田は一日中お婆さんを見てやることは出來ないのでした。山田は、毎日、まきちやんと二人、わづかな時を、お婆さんを見てやることにしてゐました。それはまきちやんの考へたことでした。お婆さんの具合がよくなかつたりして、長くかゝつたときには、
「お醫者さまは、こんでゐたのよ」
と、いつからかお母さまにうそを云ふことをまきちやんは山田のためにつゞけてゐるのでした。
家の中はまつくらでした。せまい一間の中にいろ〱の道具がおかれて、お婆さんはもう死んだように靜かでした。
「婆さんや、何か食はねえか、な、」
と山田はおろ〱と起してゐました。
「けふも、よらしてもらうたよ、婆さん、水か何かやらうか」
けれども、お婆さんはもう、何とも答へませんでした。山田は、そのひたいに手をあてて、
「つめたくなつとるん」
と云ひました。そして、あはてゝ火を起して、湯たんぽを入れてやつたり、何かしました。その間中も、お婆さんは目をあけませんでした。
「山田、どうしたの？」

と、さつきから土間に立つて、悲しさうに見つめてゐたまきちやんは云ひました。

山田は何とも云はず、目をしばたゝきました。まきちやんは、やつと息だけをしてゐる病人をみながら、外へ出ればよくならないと云はれた、あのやさしい先生を思ひ出しました。さうだ！ あの先生をよんで來やう！

「どこさ行かれるね」

「先生をよんで來るの」

「いんや、だめだ、おじよつちやま」

山田の手が、まきちやんをおさへました。

「貧乏人の家さへは、來てくらつしやりましねえ」

よごれた山田の頬をつたふ一すじの涙をまきちやんは見ました。

二人が心を殘して外へ出たときには、もうお日さまは山の方にかたむいてゐました。

「おそくなつて、どうしますべえ、おじよつちやま」

と山田は云ひました。

「いゝの、心配しなくてもいゝの、けふは、うんと大ぜい來てゐましたつて云ふからいゝのよ」

二人はだまつて道をいそぎました。

まきちやんは、いつもお母さんにうそを云はなければはならないことを、さびしいとは思ひましたが、たとひ、うそつきになつて、後でどんなにしかられたとしても、もう死ぬばつかりになつてゐる、あのお婆さんを、どうして、ほうつておけるものかと思ひました。

「おじよつちやま、すみましねえ」

山田は急に立ち止つて、くづ折れるように往來にしやがみ込んでしまひました。

まきちやんは、しんとした夕ぐれの中に、つきつめたすゝり泣きのこえをきゝました。

「かんにんしてくらつしよ、かんにんしてくらつしよ、小さいあんたにうそを云はすだ」

と山田は、泣きながらこう云ひました。

「山田、ね、そんなこと、なんでもないわ」

まきちやんは、兩手で、山田のしらがあたまを胸にかゝへ、心を込めて云ひました。

「そんなことなんでもないじあないの、ね」

二人は、やがて立ち上りました。そして、また、とぼ／＼とみちをいそぎました。

まきちやんは、生れてはじめて、深い、何とも判らない大きいものが、どつしりと重たく胸にのしかゝつてくるのをかんじました。そして、涙がこぼれました。

お家ではお母さんが、あたゝかくお食事の仕度をして待つてゐて下さるのでせう。きつと、お八つのお菓子も、とつてあるにちがひありません。けれども、この底知れぬかなしみは、溫いお母さんのおひざにすがつても、おいしいお菓子を頂いても、決してなくならないように思はれました。

# 五月一日を祝ふ

われら働く者の祝祭日メーデーが來ました。メーデーをお祝ひする心から、マキシム・ゴリキーの「母」の一部を次のやうに抜萃いたしました。「母」に出て來るハーヴエルの母親は最も勇敢にわれらの祝祭日を闘つた婦人闘士でありました。メーデーを祝へ！



マキシム・ゴリキー

「立て奮へ勞働大衆よ、立ちて戰へ飢えたる者よ……」

人々は赤旗を迎へに走つて來た。彼等は何ごとかを叫び立て、群集に交りあひ、それとともに引返して行つた。すると彼等の叫びは歌の響の中に消え去つた。――その歌は家の中で他の物より小聲で歌はれるものだ――今往來でそれは滑かに、公然と恐ろしい力を以て、流れるのであつた。

誰かの脅えた、喜ばしそうな顔が母の隣りに搖れ動いた。そして顫へる聲で喉にかすらせながら叫んだ。

——ミーチャ！何處へ行くの？——

母は足の運びを止めないで言つた。

——行かせなさい。——心配することはありません——私も始めは大變怖がつたものです——今うちの息子は先頭にゐます。旗を持つてゐるのが——私の息子です！

——ならずもの！　何處へ行くの？　あそこに兵隊がゐるのに！

そして不意に骨ばつた手で母の手をつかまへて背高い、瘠せた女が叫んだ。

——ねえ、あなた、——何といふ歌ひ方でせう！　ミーチヤも歌つてゐる……

——心配することはありません——母は呟いた。——これは神聖な仕事です……まあ考へて御覧なさい——キリスト様でも殺されなかつたら、あんなにならなかつたかも知れませんよ！

彼女の隣りにシーゾフが來た。彼は帽子をとり、歌の調子に合せてそれを振りながら、言つた。

——おほつぴらに行くんですからな、かみさん、えゝ？　歌も考へたもんです——何て歌でがせう。えゝ？

——『×は軍隊の爲に兵卒が入用だ。彼に息子をやつちまへ……』

——何も怖がることはねえ！　——シーゾフが言つた。——わつちの息子はお墓にゐまさあ……

母の心臟はあまりに強く鼓動したので、彼女は次第に後れ始めた。彼女の横を、厚い人波が流れて行つた。彼等は大勢だつた。

——『立て、奮へ、勞働大衆よ！……』

——『立て、奮へ、勞働大衆よ！……』

空中には巨大な眞鍮ラッパが歌つて、歌つては、人々を搖り起してゐるやうであつた。或者の胸には戰への覺悟を、他の者には漠然とした歡喜や、何か新しいものゝ豫感や、燃えるやうな好奇心を呼び覺しながら。彼處では——ぼんやりとした、希

望の戰慄を掻き立て、此處では——幾年もの間に積み重ねられた憎惡の烈しい流に吐け口を開く。

——やつた！ ——誰かの有頂天になつた聲が吼えた。——でかしたぞ！

そして普通の言葉では言ひ現はせない、偉大なことを感じてゐるらしく、その男は大きな聲で罵り喚いた。

——外道奴！——拳で嚇かしながら、窓の中側からちぎれた聲が叫んだ。

そしてうるさく母の耳に誰かの刺すやうな金切聲が殘つた。

——××にはむかふのか、××にはむかふのか？ ×動するものか？

母の横を當惑した顏があらわれて消えた。百姓や女連が跳ねながら走つて通つた。歌聲は響の壓力を以て自分の前にある總てをくつがへし、道を掃き淸めるやうに思はれた。遠くに赤旗を望むと、彼女は——見なくても——息子の顏、靑銅の額、信念の明かな火に燃える眼が、ありありと見えるのであつた。

然し彼女は遂に群集の殿軍になつて、急ぎもしないで、平然と前を見ながら、その大詰を前から知つてゐる觀衆の冷い好奇心を以て歩いて行く人々の間になつた。彼等は歩きながら小聲で、仔細らしく語つた。

——學校の横に一中隊ゐる。それからもう一中隊が工場の傍に……。

——知事が來た……

——ほんとかい？

——俺は自分で見て來たんだ——來た、誰かが愉快そうに罵つた。そして言つた——やはり俺達の兄弟が怖くなつたんだ、兵隊も、知事も。

——身内の人々！ ——母の胸中にのたくるものがあつた。

然し彼女の周圍の言葉は死んだやうに活氣なく、冷淡に響くのであつた。彼女はこんな連中から離れようとて足を早めた。と、不意に群集の頭が何かにぶつかつたやうであつた。その胴體は停止しないで不安な小さいどよめきを伴つて、後の方に

掻れ返して來た。歌もまた一時身顫ひをした。それから前よりも急調に聲高く續いて行つた。そして今一度音響の厚い波は低下減退した。聲は合唱の中から續々と脱けて行つた。歌を前の高さに引き上げ、前に押し出さうと努める個々別々な叫びが起つた。

――『立て奮へ、勞働大衆よ……敵にむかへ、飢えたる者よ!……』

然しこの呼聲の中には一般に融けあつた自信がなかつた。そして既にその中には不安が戰いてゐた。

何も見ないで、又前に起つたことを知らないで、母は群集を掻き分けて、素早く前に出ようとした。然し人々は彼女を押し返して來た。或者は――頭を屈げ、眉をひそめて、他の者は困つたやうに微笑しながら、第三の者は嘲笑的に口笛を吹いて。彼女はなさけなさそうに彼等の顔を眺めた。

――諸君!――バーヴエルの聲が響き渡つた。――××とても我々と同じ人間だ。彼等は我等を打たなくなるであらう。何故に打つことがあるんだ! 我々が萬人に必要な眞理を持つてゐる爲か! この眞理は彼等にも必要なのではないか。今はまだ彼等はこれを悟らない。然し彼等が我々と竝んで立ち、强盗と殺人の××ではなく、我々の自由の旗の下に進む時が、既に間近かに來てゐるのだ。彼等に我々の眞理をなるたけ早く悟らせる爲にも、我々は進まなければならん。進め、諸君! 常に――進め! バーヴエルの聲は斷然として響き、言葉は空中にはつきりと鳴つた。然し群集は崩れて行つた。人々は續々と右往左往して家の方へ退き、塀際にくつゝいた。今や群集は楔の形をとり、その尖端にバーヴエルがゐた。そして彼の頭上には勞働大衆の旗が眞赤に燃えてゐた。

通の端に、――母は見た、――廣場への出口を閉ざして、顔のない一樣な人間の、灰色の壁が立つてゐた。彼等のうちの誰の肩にも銃劍の鋭い縞が冷く、細く尖つてゐた。默して動かないこの壁から勞働者の方へ、寒い冷氣が吹き寄せて來た。それは母の胸によりかゝつて、彼女の心臓に突きいつた。

彼女は凭れかゝりたいやうな氣持で、群集の中に割込んで行つた。そこには未知の人々に交つて先頭の旗の傍についてゐた彼女の知つてゐる人達がゐたのであつた。彼女は背の高い、髯を剃つた男の横にぴつたりとくつゝいた。彼は片目だつたので、

彼女を見る爲にひどく頭をふりむけた。

――どうしだんだ？　何處のうちのものだ！……彼は尋ねた。

――バーヴェル・ヴラソフの母です、――膝頭の下が顫へ、下唇が知らず知らず垂れ下るのを感じながら、彼女は答へた。

――ふん！――片目が言つた。

――諸君！　バーヴェルが言つた。――一生涯前へだ。――我々は他の道がない！

靜かに、鋭敏になつた。旗はさしあげられた。ぐら〳〵揺れた。そして思案深げに人々の頭上で飄りながら、泳ぐやうに兵卒の灰色の壁の方へと行つた。母は身顫ひして眼をとざした。そしてあつと聲を立てた。――バーヴェル・アンドレイ、サモイロフ、それにマージンの四人だけ群集からはなれてしまつたのであつた。

然し空中にはゆるやかにフエーヂャ・マージンの朗らかな聲が顫へ始めた。

――「君達は犧牲になつた……」――彼は歌つた。

――「運命的な……戰ひに於て……」――二つの重い溜息となつて、太い、低められた聲が應じた。人々は小きざみに足で大地を打ちながら、前の方へと進んで行つた。すると新しい、斷然たる、既に身を決したやうに歌聲が流れた。

――我等は能ふ限りの總てをその爲に投げ出した……。――鮮やかなリボンとなつてフエーヂャの聲が屈曲した……。

――「自由の爲に」……――同志が親しげに歌ふのであつた。

――ウへえ！――さま見ろと言はぬばかりに脇の方で叫んだものがあつた。――御詠歌をあげやがつた、べら棒め……

――彼等を毆れ！――憤つた叫びがおこつた。

母は胸を兩手でつかんで、あたりを眺めた。そして以前はぎつちりと往來を一杯にしてゐた群集が、躊躇して立ち止り、思案の小首を傾けながら旗を持つた連中が遠去かつて行くのを見た。彼等の後に續くものは數十名しかなかつた。それも一歩進む度に、恰も往來の眞中が赤熱して足の裏を燒くやうに、誰かを脇の方に跳びのかせるのであつた。

――「專政は倒れん……」――歌はフエーチヤの口を藉りて豫言した……。

――「民衆は立たん」――斷然と威嚇するやうに力強い聲の合唱が彼に和した。

然しその歌の整然たる流れの間を小さな聲が貫いた。

――號令をかけるぞ……

――構へ！――前方で鋭い叫びがおこつた。空中に銃劍が屈曲して搖れ動き、倒れた。そして狡猾に微笑みながら、旗にむけて突き出された。

――進め！

母は瞬きもしないで眺めてゐた。兵卒の灰色の波は動搖した。そして町幅一杯に伸びて、自分の前に銀色に輝く鋼鐵の歯の疎な櫛を携へながら、滑かに、冷酷に進んで來た。

彼女は大股に歩いて息子により近く立つた。そしてアンドレイもバーヴエルの前に踏み出して、自分の長い體で彼をかばはうとしたのを見た。

――並んで行けよ、おい！――鋭くバーヴエルは叫んだ。

アンドンイは歌を歌つた。兩手を脊に組み、頭を高く上げてゐた。バーヴエルは彼を肩で突いて、再び叫んだ。

――並べよ！　君には權利がない！　先頭は――旗だ！

――解散！――小さい士官が白いサーベルを振り廻しながら、細い聲で叫んだ。彼は足を高く上げて膝を曲げずに、性急に足の裏で大地を叩いた。母の眼には彼のピカ／＼磨いた長靴がうつゝた。

横側を彼より少し遲れて、脊の高い、髯を剃つた男が重々しく歩いてゐた。彼は太い白い口髯を持ち、赤い裏のついた長い灰色の外套を着て、黄色い筋のはいつた廣いズボンをはいてゐた。彼は濃い白毛眉を高くあげて、バーヴエルを眺めてゐた。

母は數へ切れない程多くのことを見たので、彼女の胸には吐息をつくごとに飛び出したがる聲高い叫びが、動かずに蟠つて

ゐた。それは彼女の息の根をとめそうであつた。然し彼女は兩手で胸をつかまへながら、その叫びを押し耐へてゐた。群集は彼女を突きとばした。彼女はよろ〳〵しながら、考へることなく、殆ど意識すらなしに前の方に進んで行つた。彼女は自分の後に益々群集が少なくなつて行くのを感じてゐた。眞正面からせまつて來る、冷酷な波が、彼等を散り散りにするのであつた。赤旗の人々と灰色の人々の密な鎖とは益々近く動いて來た。××の顏もはつきりと見えた――町幅一杯の廣さで、その前には銃劍の細い切先が殘酷に光つてゐた。人々の胸に擬されれは銃劍は、彼等に觸れないうちから、彼等を續々と群集から引き裂きそれを崩すのであつた。

母は自分の背後に逃げまどう人々の足音を聞いた。息の詰つた、度を失つた聲が叫んだ。

――おい、逃げろ……――ヴラソフ、走れ！……――退却だ、ヴルーハ！

――旗を棄てろ、バーヴエル、――陰氣にヴエソフシチコフが言つた。――こつちへよこせ、俺が隱そう！

彼は片手で旗竿をつかまへた。旗は後に傾いた。

――よせ！――バーヴエルが叫んだ。

ニコライは恰も火傷でもしたやうに手を引いた。歌は消えた。人々はぴつたりとバーヴエルを取卷いて停止した。然し彼はそれを押し分けて前進した。不意に、一時に沈默が押し寄せた。それは恰も知らぬ間に上から降りて來て、人々を透明な雲で包んだやうであつた。

旗の下には多くて二十人ばかりの人が立つてゐた。然し彼等は、彼等の身を氣づかう感情と、何か彼等に云ひたいぼんやりとした欲望とで母を引きつけながら、斷固として立つてゐた……。

×　×　×　×　×　×　×

×　×　×　×　×　×

# 編輯室にて

奥むめお

鳳のやうにあわたゞしい私を中心にしてやつてゐる職業婦人社の仕事は私の忙しさ故に、隨分仕事がゞたゞちんばになつて來たと思ひます。よい才能をもつて職業婦人社の仕事に充分共鳴し興味を感じて近づいてゐられた人たちをも、私の忙しさは、しば／＼崩してしまひ、伸ばすひまもなく來てしまつたと、私は反省させられてゐるのです。

地方にゐてよいグループ（仲間）をもたず、刺戟の少ない生活の中にあつたら才能を埋もれさせてお出でになる人達も、相當多い筈ですのに、私は、さういふよい人たちに差しのべる手をも、もたなさすぎて自分勝手な忙しさの中に、くらして來たと後悔してゐます。

今日は事務所でみんなが車座になつて、お餡を頰ばり乍ら、いろ／＼職業婦人社の新しい計畫について話し合ひ、これまでの不可なかつた點々について云ひ合ひました。

第一にお互ひにこの仕事を中心にして刺戟し合ふこと、働きながら勉强が出來、研究をも進められる様に心掛けること。

そのためには何よりも、地方に散在してゐられるよい仲間、よい讀者と、もつと親しくなりたいものだといふことに一決しました。地方に散在するよい仲間に私たちよりも刺戟を差上げると同時に、私たちも親しいよい友だちを殖やしてそこから、いろんな刺戟を貰ふ様にしたいものであります。

## 讀者をふやして下さい

廣告力をもたないうちの雜誌のやうなものは、內容がどんなによくても、今の資本家主義社會では店頭の商品にならない。

だから讀者から讀者へ！

みなさんのお助力に依つて直接にすゝめて下さつて、讀者こして協力者をふやすより外ないのです。

新しい仲間よ、殖えよ！

讀者をふやして下さい

東京で婦人講座を初めました。續々つゞけます。

地方でも讀者を中心にした懇談會や研究會や講演會をあちこちで催すことにいたしませう。

そのためにわざ／＼出かけてゆくといふ事は當分われ／＼の經濟事情が許しませんが、私一個人としては隨分あちこちに講演旅行をしてゐるのですから、その序でを利用して、これからは成べく各地に立寄ることにいたしますから、其樣に於ても、お知らせしたときに萬障をくり合はせて、お友だちを誘つてお集りをして下さい。

會へば又、きつとよい知惠が出て來、よい問題に話の華が咲き、よい友だちが出來るものです。ほんとに何といふよい知惠が出たのでせう。

早速に實行に入りませう。

青柳さんを主任として、こんど人事部が出來ました

三月から四月にかけて就職求職について大分お世話が出來たのも青柳さんといふ中心が出來たからであります。

おひ〱と擴張して有力な職業紹介機關にしたいと思つてゐます。一つには、各方面の職業教育が出來る樣に準備を整へて職業婦人社から世話をする人は働く仕事にかけても相當に素養があるといふ信頼をうける樣になりたいと思つてゐます。今の處、職業婦人社から雇入れる人は、身元が確實で人物もしつかり者ばかりだといふ信用だけは獲得してゐるのです。

やがて、職業婦人社綱に依つて最低給料額を定め、こゝから派遣された人は、その地位がたしかだ、といふ安心を職業婦人諸氏の上にもつてもらひたいものだと意氣込んでゐます。

さて、職業婦人社の仕事を中心にして、力ある人々が澤山に集まり、お互ひに闘志を研き、熱を高め合つて、そのゆく所に、何らかの仕事が形の上にも現れて來ぬといふことがありませうか。

ちり〲ばら〲に地方に埋もれてゐる讀者のみなさんの上にも、社會的任務が芽ばへて來てほしいものだと私は希はずにゐられないのです。

みんなではげまし合つて、助け合つて、社會的に有要な仕事をそれ〲に分擔する日を早く到來させたいものです。

## 讀者會をしませう

奥氏が地方講演に出かけるついで〱を擴して讀者會を開いて下さい。

未だ讀者でない方でも、婦人問題、社會問題に興味をもつてお出での方々を誘つて、一人でも澤山の方が、奥氏を中心にして懇談する機會を作つてほしいと思ひます。多少は廻り道をしておたづねしてもよいと申してをられますから豫め申込んおいて下さい。

誌代されのお方はすぐ送金して下さい。前金斷行

誌代は必ず前金で送つて下さい。郵便局に遠い處は切手代用でも結構なのです。郵便局へお出でになる方は成べくカワセでなく、振替東京六四一六〇へ組入れて下さい。この方が安上りになる上に、確實です。

原稿も、新しいお方のものがこの頃少なうございます。どし〲送つて下さい。みんなの雜誌として、この「婦人運動」に凡ゆる婦人の心を反映させたいものです。

近況を知らせよ！　感想を書き送られよ！


昭和五年四月二十日納本
昭和五年五月一日發行
◇誌代はすべて前納にして下さい

誌代　壹部　貳拾錢（郵稅一錢）
半年分　壹圓二十錢
壹年分　貳圓二十錢

編輯發行兼印刷人　奥むめお
東京市牛込區本村町四
職業婦人社

大正十三年十一月二十二日第三種郵便物認可
昭和五年四月三十日印刷納本
昭和五年五月一日發行（毎月一回・一日發行）

婦人運動

第八巻第四號

定價